うえだ

社団法人 上田高等学校同窓会関東支部会報

11月20日（水曜日）
1974（昭和49年）
季刊

第12号

発行所 上田高等学校同窓会関東支部事務局
発行責任者 大森頼雄
編集責任者 花岡修
埼玉県川口市並木町2－11－6 矢島鋳工㈱内
電話 0482－53－2662（代表）

題字は故稲垣征夫氏筆

東京 農林年金会館
東京都港区芝西久保巴町36－1
東京 03（432）7261
（地下鉄・日比谷線・神谷町下車2分）

盛会・上田健児都心に集う

第十三回大会、盛大に終る
感激の渦のうちに

第十三回大会の日がきた。

本会初の土曜日の午後開催の関東支部大会である。

役員の正午集合も若手役員には少しく時間的に無理らしい。年配の幹事各位に受付を急拠手伝ってもらう。続々と先輩、後輩の顔がみえる。御多忙のところ石井上田新市長さんが来賓のトップを切っておみえ下さった。感激の一瞬であった。

大会の開催日時は、いつも問題になるが、土曜の正午受付開始、午後一時開会は初めてのこと、一度は実行してみるべきことでもあった。しかし定刻には八分の集合時間通りの開会が出来たことは幸せであった。

第一部、(28)坂井副支部長の開会の辞が和やかなうちに述べられ、(40)小林郷司新副幹事長の司会も順調なすべり出しである。

校歌の斉唱は寸時、一同にふるさとと上田高校の学びを想起させる。新相談役(21)島田前支部長の挨拶あり、議事の諸事項もスムースに運ばれた。

各来賓も次々と入場されてくる。

同窓会本部代表の柳沢理事長、柳沢母校学校長、恩師の岩下、竹内、松浦諸先生方、そして僚友校の東京各同窓会を代表して、上田千曲高校、野沢南高校、木曽山林高校各代表の諸氏である。

本年四月幹事会において改選された新役員幹事の紹介がなされ、代表して(23)大森頼雄新支部長が、力強く本会の発展と親睦の実を推進すべく挨拶。満場の拍手を受けられ第一部は、三十分で終了した。

第二部の懇親会に移り、司会のバトンが(44)柳沢 広新副幹事長に移る。(30)尾台副支部長の関宴の辞。来賓の柳沢理事長や僚友校を代表して木曽山林高校の森下会長さんも本会の感激を語られる、石井上田市長さんの熱のこもった御祝辞はふるさと上田市の山河を偲ばせ盛大な拍手が起きた。

時間をいただいて前幹、柳沢母校学校長の祝辞と母校の現況が報告された。本年各運動部の活やく目ざましく全国大会への出場選手も多く費用の捻出に大わらわとなり、御苦労さまの声もあって、いよいよ宴の花が咲いた。

会場の各テーブルを囲み、先輩後輩、同期生が来賓を交えその一大祝宴に談笑が交される。

若き日の感激新らたに、六文銭の鉢巻が例の如く、あざやかに冴える。各期の各運動部OBの蛮声が一年ぶりになつかしくひびく。(36)神野新幹事長の「皆さん」の呼びかけで、母校運動部選手派遣へのカンパがなされ、たちまち二百万円余の資金が集る。柳沢学校長の深々と感謝のお姿が印象的だった。「同窓生っていいもんだな」と会場の一隅でささやく声が耳に入った。歓つきざるも時迫りきて、拍手もて来賓を送り(31)矢島新副支部長の閉会の辞をもって、無事この大会は終了した。

静と動・第13回大会風景（49年6月29日）

大会をかえりみて

支部長 大森頼雄

今大会は私が支部長に就任して最初の大会でありました。

本部柳沢理事長、柳沢校長、石井上田市長はじめ僚友校代表等来賓多数をお迎えし、盛大に終る事が出来、幹事諸氏の一方ならぬ御努力と会員の皆様の御協力に心から厚く御礼申し上げる次第です。

今回は初めてのこころみとして土曜日の午後開催しました処、賛否両論あり、今後の研究課題としたいと思いますので、会員諸氏の積極的な御意見をお寄せ願えれば幸いです。

なお会の内容についても幹事会でも常に問題になり、何とか楽しく意義あるものにし、一人でも多くの会員諸兄が参加出来る大会にするにはどうしたらよいか議論の多いところでありますが、今後共研究を重ねてまいりたいと考えています。「同期会には出席するが大会は面白くない」「若い期の人達も参加しやすい様に、会のあり方、会費の額等を研究せよ」といった声を大会当日も多く耳にしました。

我が上田高校は創立以来七十有余年に及ぶ歴史と伝統を持った誇り高い母校を持っているだけにその年齢層は厚く、会員諸氏の全員が満足出来る大会を持つと云う事は大変にむずかしい課題ではありますが、過去十三回に及ぶ大会の反省の上に、来年は更に盛大にして、しかも有意義な大会が持てる様微力ではありますが、私も努力を至す所存でありますので、関東支部会員諸兄の一層の御協力賜わらん事を、心から御願い申し上げると共に御健勝と御発展を祈りまと同期に近い者が同じテーブルに集る。昔の面影が残る懐しい顔が見える。おっお前も来たのか元気だったか。しっかり握り合う手に力がこもる。こんな嬉しい会が他にあるだろうか、老いも若きも又環境も違う者が只同窓会という名のもとに、愛校精神に燃え幼い昔に戻り六文銭の鉢巻をしめ、互に手をつなぎ合って歌うその姿は何ものにも換え難い美しくそして暖いものがある。私もこの会に参加して以来三年、毎年その形こそ変らないとはいえ、その雰囲気にひたるだけで一年の活力が湧いて来るような気がする。願わくは、今まで出席出来なかった諸兄にも出来るだけ参加を得て、この会が増々盛大に発展して行く事を願いつつ私はどんな用件があろうとも、この会を最優先に、今後、命ある限り毎年出席させて貰うことを誓い、友との再会を約し会場を後にした。

大会の感想

(42) 高橋祇市

ムーと来る熱気、生気の満々会場、第十三回関東支部の同窓会の幕は切って落されていた。荘厳の中に校歌斉唱、皆腹から力いっぱい歌っている。やっぱり嬉しいんだなあ。こちらも連れられてつい大声を張りあげる。校庭の土手の大木に腰をおろし、青春を語らった土手鳥の姿が脳裡をかすめる。胸がじーんとして来た、廻りを見渡しても知った顔はほとんど見当らない。然し何か皆血が通っているような親しさを覚える。あの先輩もこの後輩も……宴会に入ると同期に近い者が同じテーブルに集る。昔の面影が残る懐しい顔が

関東支部名簿

作成について

―会員諸氏の御協力を乞う―

関東支部の会員名簿発行は、第一回目が昭和三十四年四月であり第二回発行は昭和四十二年五月である。その後再発行も計画されたが、同窓会本部において、母校創立七十周年を記念し、名簿発行に着手、関東支部も全力をつくしてこれに協力、支部名簿の発行は中止した。

そして昭和四十七年一月、年余の努力が実り、部厚なすばらしい「全同窓生名簿」が発行された。

そして間もなく三年目を迎える年々。否、月々に会員の移動も、はげしく、特に若い期、関東支部会員の動きは予想外である。

年二回発行の会報「うえだ」によって支部会員の名期団結も著しく、会員の「関東支部会員名簿」発行を望む声も高まってきた。

本会「幹事会」においてもこれを取り上げ、実行に移すことにした。

次に計画大要を列記し、会員諸氏の絶大な御協力を願う。

◎関東支部「会員名簿」編集計画について

一、発行予定　昭和五十年十一月

一、原稿〆切　七月末日
　広告原稿　八月末日

一、登載会員　関東地区居住の会員約三千二百名

以上その大要を列記したが、来る十二月二日（月）の本会「幹事会」において更に検討し、各期代表幹事諸氏の責任において、自己期の名簿原稿をまとめていただきたいと願う。

完成された名簿により、我が同窓生が、あらゆる部門に活やくされていることを知っていただき、かつは会員相互の交流の資とも致したいと望む。

次号第十三号（明年五月発行予定）に、名簿編集の中間報告も行い、会員諸氏の更に御協力をお願い致したいと切願する次第である。

会則一部変更について

(現行)第8条　幹事及び監事は総会に於て会員中より選挙し、その任期を三ヵ年とする云々

(改正)三ヶ年を二ケ年に変更する。

(現行)第9条　幹事は互選をもって支部長一名、副支部長若干名、幹事長一名、及び常任幹事若干名を定める。

(改正)「幹事長一名」の次に「副幹事長若干名」を入れる。

(現行)第11条　幹事長は幹事会を構成し、各期の連絡を密にしこの会の運営に当る。

(改正)「幹事長は」の次に「副幹事長と共に」を入れる。

「運営に当る」の次に「副幹事長は幹事長を補佐し、幹事長事故ある時は、その職務を代行する」を入れる。

(現行)第15条　この会に顧問を置くことが出来る。

顧問は幹事会の決議を経て総会に於て推挙する。顧問は支部長の諮問に応ずると共に会議に出席して意見を述べる事が出来る

(改正)顧問　の次に夫々「相談役」を入れる。

皆様のサロンです　お気軽にご利用下さい

結婚式・宴会・宿泊

地下酒寮 信濃路

おはづけ、ひたし豆、蜂の子等で地酒を楽しんでいただく望郷の酒場です

国際ホテル 八峰閣

取締役 横関嘉伸（39回）

お問合せは ☎(982)1181番　豊島区南池袋2－15－10

ハマダスター 700CD 600CD 900CD-X

全自動小型オフセット印刷機

東京ハマダスター株式会社

代表取締役社長 清水幾男（38期）

本社 東京都中央区日本橋兜町2丁目42番地
〒103（兜ビル）
電話(03) 667－0061番（代表）
支店 北海道支店＝札幌市・東北支店＝仙台市
営業所 旭川・青森・秋田・新潟・長野・静岡・高崎・水戸

第13回関東支部大会
反省会記録

幹事長　神野勝男（36）

去る九月二十七日午後六時より東京農林年金会館にて、第十三回大会の反省を兼ね幹事会が開催された。席上大森支部長より次のような趣旨のあいさつがあった。

「インフレのすさまじい風の中にあっても、わが上田高校健児は、いささかも動揺することなく、このような元気なお顔でお集りいただき誠にご同慶の至りである」と、久しぶりに会えた喜びを体いっぱいに表わして更に「大会の出席が少ないのはどこに原因があるのかをご検討いただきたいことと、出欠の返信すら出さない同窓生がいるのは、どう呼びかけたらいいのか？」、と二点に中心をおいて討議いただきたいと結ぶ。早速、反省事項に入る

一、通知状について

通知発送数　三、二九七通
イ、戻り分　一七九〃
ロ、出席返信　一六四〃
ハ、欠席返信　五六三〃
ニ、届いていて返信なき分　二、四〇三〃

通知をうけて、返信を出した人がなんと二三パーセントという現実をどう考えていくか？

矢島（以下敬称略）封書が大きいので三千通からの発送は乗用車一台には入らないほどの量である。発送費も三千掛ける二五円で七万五千円である。

石倉　封筒の表に、内容を書いておいたらどうか。

尾台　「要返信」という印を押して出したらどうか。

大森　名簿作成上必要であるから出欠にかかわらず返信をたのむ、といってやっても、読んでくれないのか、返信をくれない。会則を変更して、年会費も納めない、大会の返信もよこさない者は、会員の資格を失うとしたらどうだろう。支部規約であれば、それはできるはずである。

宮坂　創設初期より苦労してきたが、第一回大会には最初だという魅力があった。しかし、それ以後だんだん私自身同窓会との接触の機会が少なくなった。これは主催者側において、常に魅力ある大会にもっていくことに多少努力が欠けているのではないか。

矢島　他校においては、会の趣旨に賛成した方をもって会員としているところもあるので、入会申込みをいただいて、この辺で整理してみてはどうか？。

花岡　無返者の内容を分析検討する必要があると思うが……。

大森　私とも同期の連中の中には、二三期の同期会には出るが、大会には出ない連中がいる。それは、知らない人ばかりだから孤独を感じて面白くないという。であるから、大会の内容について検討する必要がある。

二、大会準備について

この件は多数のご意見があったが

イ、会計係の欠席
ロ、受付係の遅刻

の二点があげられ、次回には今回のようなことがないよう注意すると、いうことであった。

三、大会の進行について

意見なし。進行より、内容を考えろということであった。

四、開催日について

これは挙手をもって賛否をとったが、「平日の夜」という希望が圧倒的多数であった。

吉井　大会の内容によっては、タップリ時間をかけて半日とか、日曜一日使って開催するような企画もあっていいのではないか。

五、内容にどんなものを盛込むべきか

曲尾　アトラクションのチャチなものは喜ばれない。景気のいいものを打上げたほうがいい。

六、その他について

赤池　先刻の年会費を納入しない者には、「うえだ」を送らないようなご意見があったが、わたくしは賛成できません。国税局に勤めているから言うのではありませんが「税金を納めないから、お前はこの道を通ってはいけない」というような議論に似ていると思います。（爆笑と喝采）

七、まとめ

イ、年会費未納者にして、無返信者については、そろそろ検討の時期にきている。

ロ、大会の魅力をどう創り出すか、大会は平日の夜開催することが望ましい。

白寿を迎えた
恩師に文集を

同期十七名で桐生小曽根の北村友圭先生を慰問旅行したのは四十六年九月二十七日のことであった。その前日上田・東京の同期は高崎駅で落ち合いその夜は忠治温泉で一泊、明けて二十七日はマイクロバスで先生宅を訪れた画期的な慰問旅行であった。あれから三年あっという間に過ぎた。先生は今年九十九才の白寿を迎えた。末だかくしゃくとして高校大学入試の数学を自宅で教えている。

この春文集を作って贈ろうというので三十有余の稿が集ったので印刷に回し八月中旬に五〇ページの小冊子が出来上ってきた。早速三五部を先生に送った。

表紙には〝われ等の金魚先生・白寿祝・北村友圭先生〟とあり中央に二尾の金魚が藻の中でアブクを出しながら仲よく泳いでいる。下方に〝上中二〇回卒業生〟。

大正八・九年と上田中学には二年しかいかなかった金魚先生、新任の挨拶時あの講堂で口をパクパク、一言いっては又パクパク同期が命名した金魚先生の愛称、四年五年と数学を教わった金魚先生、卒業の春お別れに麩を持って行ったら喜こんで受けた金魚先生、先生は金魚の愛称に共に親まれ、質実と愛情が根強く教え子に浸透していた。ある者は自分の生涯を支配したものは先生だと告白した。多かれ少なかれ何かを焼き付け残して行った金魚先生であった。

秋林檎が実れば林檎を送り、同期の会合があれば寄せ書きを送り年が変れば賀状を送り、師を想う愛情は高きに在りておもうのである。

北村先生白寿を迎え、われ等も後に続けやと、先生の福寿を祈ること切である。（20）石井保記）

小山一平氏（前上田市長）
最高点で当選する
「参議院長野地方区」

去る七月七日行なわれた参議院議員選挙で、31期の小山一平氏（前上田市長）が長野県地方区で最高点で当選した。

＝祝賀と激励の集い＝

御目出度う…

此の一語に尽きる。

我々同期生は勿論同窓生の諸兄弟姉妹も共に超党派で応援した我等の仲間から国政に参与する一人を輩出させたのだ。

ローマは一日にして成らずの例に洩れず数十年地道に積み重ねた成果である。彼の人為と今日迄築き上げて来た県議並に上田市長として庶民に及ぼした善政の業績が物を言ったに過ぎない。当然の帰結である。然しながら血みどろな苦しい闘の連続によって得た勝利でもある。

この栄誉ある当選を祝すべく、上田中学及び上田高女の第31期の同期生が、主体となって祝賀会を開催。各方面に呼びかけたところ突然の催ではあったが、七月三十日午後六時半池袋八峰閣に会する者。

在京同期生中学十四名・高女七名・上田高校同窓生三十有余・染丘同窓生四名・矢風の集い其の他で、四十名会場狭しと盛会を極めた。

同窓生を代表して大先輩の大森支部長より心温る祝辞と激励を賜り、同期生を代表して宮坂三吉君染ヶ丘同期生横沢政子さん、丸山元国税局長等の皆さんから暖ユーモア溢れる祝辞及び回顧に華が咲き宴はいやが上にも盛り上がった。

小山君

最高の得票の上に安座をかくことなく住みよい日本を創りあげて欲しい、今の国政は君のような清廉潔白な正しい議員によって運営されなければならない。

君の手によって立派な美しい日本国を造って欲しい、庶民の政治をかちとって欲しい。

我々は市政を全うしたと同様に参議院議員らしい立派な政治家たることを期待してやまない。

（31期　土屋学　記）

大土会開催（49年度）

同郷、それは素朴で且つ近親感の別名だ。重畳る山なみ、清冽なせせらぎ。故郷への慕情は老いていよいよ濃い。

本年も秋深まる十月二十五日に千代田区九段の東電千代田寮で四十九年度の上中大土会が開かれた。

集まるのは十三名。そこには幼馴染みの顔ぶれ。上田城に近い上田中学校時代のあれこれが、髪髷として懐い起こされる。人生は長いようで短い。生々流転、愛別離苦老いて人生の味がひとしお判るのではなかろうか。

当時ハイカラでスマートな背広姿、若き英語教師だった下総好昌先生も今や亡い。大土会には時々出席されて何時迄も青年のような風貌だった先生。吉村君、世木君、その他に亡き数に入った友人もぽつぽつ出ている。人生余すところ幾ばくかと感ずる一面、まだまだ若い者にそうひけはとらないぞと老者の意気さかんな向きも相当居るだろう。老友相たずさえ、人生を語る今宵こそ得難い機会なのだ。

松平忠久君勲二等、近藤貞君勲四等、先ず祝意を表する。

インフレの昨今僅少な会費で御馳走はなかなか豪華。幹事諸兄の御努力を感謝する。

酔がまわるにつれ、なつかしい信州弁、上田弁が飛び出し、懐旧の念うたた。長らく姿を見せなかった矢島桂三君が珍しく出席、小生など何十年振りかである。

今宵はよく晴れた深遠な秋の夜宴。爽かにして快い酒である。肩を叩き合って放談。里見卓郎君がカメラを有効に使って呉れる。小生も年を忘れ脱線気味。賛うべきかな信濃、山湖流れる。

延々二時間余。芦田君から出席者全員に白樺線香の実の福袋がプレゼントされた。由緒ある縁起のよい福袋らしい。満気溢れる会であった。希くは毎年この盛会を享受出来るよう切望する。

出席者氏名左の通り。

芦田中、小池泰毎、小林元仲、近藤貞、里見卓郎、島川進、島田次郎、関光雄、土屋運、長谷川長衛、半田裕一、矢島桂三、若林泰三、以上十三名の諸君。

みずからの煮たる味噌汁舌鼓うち吸い生けりひとり身安し

徒らに騒げる心さびしかりペン持ちて秋想凝らさんとすず

（21）関　光雄記

歴程賞に輝く
渋沢孝輔氏

今秋、47期の渋沢孝輔氏が第十二回歴程賞を受けた。

氏は、真田町の出身で東大大学院で象徴詩とくにランボーを研究し、現在は明治大学教授。授賞した詩集は「われアルカディアにもあり」である。詩集の題名の意味は、自分も昔は桃源境に住んだことがあった、幸福な時を過ごしたことがあったという過去への哀惜である。

歴程は、草野心平氏を親分格とする同人の集りであるがその賞は風格のあるものとされている。

氏は、「近代化の進んだ国ほど聞くないというのは、日本はそれほど近代化してない証に生命力があるということでしょう。元来詩というジャンルは古く、呪術的世界と密着しているから、それが希薄になれば詩の影も薄くなる理屈です。近代が始まって以来詩人は矛盾した立場にあるとおもう。いまどき詩を書くのは時代錯誤なんです」と語っている。

（十月一日付読売新聞記事から）

松尾税友会
上山田温泉で開催

職種別同窓会とでもいうべき、税界在職者による「松尾税友会」は、産声を上げて、足かけ四年目に入った。

出生時の会員数は九十三人であるが、その後、入会申込みによりついに百五人の大世帯になった。

これまでの大会の度毎に「次回は、ぜひなつかしのふるさとで」との強い要望があり、それが、今回の第四回大会においてついに実現したのである。

旧盆明けの八月十七日（土）上山田温泉は、清風園に会員三十五人が集い、これに当方が時間給を支払うところの若くて美しい女性会員七人が、色を添えた。

参加者の中には、将来の税界を担うべき（62）塩入功三君（63）長沢知能君、（65）中沢等君など若手の顔があり、先輩達をことのほか喜ばせた。

大会は、今回開催に当たり御苦労された、地元幹事（42）高木公喜氏＝上田税務署法人税上席調査官＝の司会によって、（36）松下高吉幹事長の開会の辞にはじまり（36）丸山英人会長の挨拶、（31）矢島五郎＝関東支部副支部長＝本会顧問の祝辞と続いた。

席上①会長の丸山英人氏は、上田高校不世出の大蔵審議官をこのほど退官し、現在、地域振興整備公団理事として活躍していること②副会長矢島英雄氏も長野税務署長を勇退し、現在、後進の指導に当っていること、③幹事長松下高吉氏は、関信国税局直税部次長を惜しまれつつ勇退し、現在、これも後進の指導に当っていること等の報告があった。

このように、税界の重責にあった諸先輩が、それぞれ現役を去ったのは惜しまれる。

また、オブザーバーとして出席された（36）室賀千秋（48）伊藤伝兵衛両先輩からは、地元、経済界の現状と今後の見通しについてお話があり、会員一同改めて地元経済界の動向についての認識を深め、まことに有意義であった。

また、幹事の一部を若手にかえて更に当会の運営を盛り上げようとの提案がなされたが、若手新幹事の選出は、現幹事に一任となっている。

忘れえぬ楽しき思い出の一つとして、参会者一同で「よせがき」をした。達筆な方が多く、小生はじめ字に自信のない者にとっては緊張した一時であった。在学中に早くも全科目の試験に合格し、卒業とほとんど同時に東京駅前のビルの一室に事務所をかまえた、（51）荒井信明先輩がその代表。一番大きな立派な？サインは、写真で一目瞭然（失礼なことを書いたので、一筆かき加えると、上田高校同窓会経済問題懇談会の世話人もつとめているが、同会メンバーより信用絶大）。矢島五郎顧問のサインされた「この集い永久に守りませ」は、会員の気持を誠に見ごとに要約された、将に寸鉄人を殺すのたとえどおりの名言。

会員諸兄の相互協力により、同窓会活動の一つとして、今後もこの名言どおり発展させたいと思うこと切！　また「この日楽し」という、郷里経済界の重鎮、室賀大先輩のサインには、一同の喜びがよく表れている。

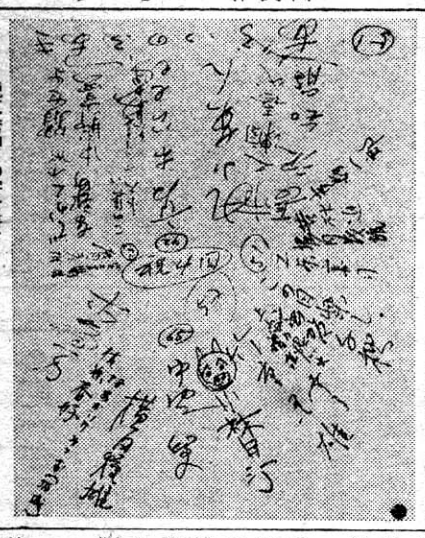
さて、夜は、宿泊の部屋割をしたが、A室になった人もB室になった人も、また先輩も後輩も関東も地元も入り乱れての集りがあちこちにでき、職場での話や、思い出に話がはずみ、夜のふけるのも忘れた。

翌朝、清風園九階のパノラマホールで食事をとりながら、懐しの千曲川や、山々を眺め、名ごりを惜しみつつ十時すぎ散会した。

最後に、遠路、多忙中を参加してくれた会員、多くの好意を寄せて下さった諸先輩、当会開催のために献身的な奉仕をされた地元会員、先輩が経営するところの清風園の方々の行き届いたサービス、これらの皆さんに、会長に代って深く感謝する次第である。

今後の松尾税友会発展のために「ふるさと大会」は、極めて有意義であったといえよう。

（58）赤池三男記



税友会当日の寄せ書き

祝　会報第12号発行
上田高校 済経問題懇談会
世話人　牧内　操（47期）／石巻　伸夫（52期）
小木曽　誠（48期）／岡村　潔（55期）
山崎　延秋（48期）／堀内　幸（56期）
堀内　惇（48期）／清水　義幸（56期）
半田収一郎（50期）／小宮山　栄（56期）
村田　寛（51期）／林　嘉市（58期）

小林郷司事務所
公認会計士　小林郷司（40期）
（丸子町上丸子出身）
（税理士・中小企業診断士）
事務所　〒101　千代田区神田鍛冶町3—3（共同ビル）　電話（252）8801
自宅　〒177　練馬区関町4—甲748—9　電話（920）6736・6748

親から子、その嫁へ 縁の不思議

今を去る四十年の昔、塩田の雄峰、独鋸山を背にし、美しい自然に恵まれた高原郷、西塩田村手塚出身の一人の少年が、憧れの「上中」へ入学した。そして歳月は流れて五年。彼は黒い小倉の学生服に身に包み、いっぱしの、「ドテ鳥」に成長した。

選ばれて応援団長になった彼は多くの学友と共に、西に東にと県下を駆け回り、時々というよりはしばしば手にすることの出来た、「優勝」の喜びに、身を震わせながら、夕闇せまる校庭で「夕陽千曲の水の面に、映えたる血潮輝きて、躍るや絶えぬ歓びの、流れにひびく陣太の音……」と蛮声を張り上げて青春を謳歌していた。

夢多き青春の日、学ぶというよりは寧ろスポーツに打込み、時々は他校の応援団と喧嘩などして楽んだり、またその反面学友と共に恋を語り、詩を愛し「ハイヤ」に逢うと顔を赤らめたりして、多感な学生時代を満喫していた。

彼の名は、曲尾清（30回）、そして幾星霜、彼が58歳、息子の縁談が始まった。数ある候補者の中の一人に「染谷丘」出身の娘の名があり、その姉妹が五人共、染谷丘卒と聞いたとき、彼は息子以上に喜んで、この話に乗気になった。そして目出度く、彼の息子とその娘は結ばれた。

さらに嫁の父親が丸子町の小林啓郷氏（24回）であり、嫁の義兄が三人共上中卒と聞くにおよんで彼はビックリするやら喜ぶやら。

それから彼等の親戚付合いは、上中の先輩後輩、上中対染谷丘と和気あいあい幸福そのものである。全く縁の不思議、お蔭様と歓んでいる。郷愁というか若き日のロマンというか、人間は幾つになっても若き日の思い出と夢は忘れがたいものだ。

「ドテ鳥」の夢は、上田時代の学友そして、ほのかに憧れた「ハイヤー」の思い出。その両方をまとめて手に入れたのだから、めでたし、めでたしという次第。有難いことに、今年の二月、黒坂周平君（30回）の招きで、小学校の同級会（別所温泉）に出席することになった。たまたま、息子夫婦と孫娘も、嫁の里丸子町へ遊びに行くことになり、息子の車に同乗させてもらい、途中懐しの母校を四十年振りに訪問する好機に恵まれた。

古城の門前に降り立ったとき、昔ながらの古色蒼然たる「上田高等学校」の看板を目にし、若き日の感激が胸にジンとよみがえり、何故が眼頭の熱くなるのを禁じえなかった。「故郷の山に向いて言うことなし、故郷の山は有難きかな」の思い一人。ちなみに、筆者のワイフは、松本市蟻ヶ崎の出身同郷人同志の結婚ってイイモンデゴワスワ。（30）曲尾　清記

花あるいは石仏

人の世の儚さ、脆さ、哀しさを知った時、桜の花は怪しみの不吉の香りに満ち、あまりにも魅惑的な姿をとる。

ことし、幾年振りであろうか、桜の孝節、花見の気もないのに通りすがりに、それも時も所も実に幾通りもの、満開の、蕾の、又葉桜をさえ望む機会に恵まれたのだった。

圧巻は信越線添いの横川辺りであったろうか。春盛りの淡い陽光の中に、あるいは段丘に、あるいは電車の沿線に、あるいは又人家の合間に見え隠れして。そして何より私の心を捕え魅了して措かなかったのは、一抱えもあるかと思われる漆黒の幹の老木であった。緩く扇形に広がりを見せた、時も盛りの、紛う方もない桜の色そのものの桜花は、枝も折れよとばかり、全生命を込めに込め、わずかの風に揺れながら、瞬時の全盛を誇っている。花片ひとひらも舞ってはいない。思わずわたしの膝の力が抜けた。わたしは車で、かなりの速度で国道を走っていたのだった。

三月末、四月上旬と二人の弟の相次いだ結婚式に参列の途次でのことなのである。そして、わたしはこの郷里の祝事を境として故郷を失った。両親とのこと、弟たちとのこと、更にはその嫁の係累のこと、又なによりわたしが長兄でありながら家を空けていることになど起因の基は際限もないのである。わたしはそしてこれでいいのだと思っている。誰もが一度は通るに違いない堰なのだなら。

帰途、やはり桜はそんなにはまだ揃ってはいない。おなじ横川辺りでのことなのである。東の窓に寄ると、峻険妙義の山々を見晴るかし、また霧積の流れも青い、とあるドライブイン。

この時、わたしはやみくもに疲労困憊の極にあったといって過言でない。このわたしの眼を一点に釘付けにして放さなかったもの、それは丈僅か四十センチ足らずの石の仏であった。

土産物や展示物の雑然としたなかに、それは他の二体と、一つは鋳物であろうか、一体は座っていたであろうか、同じにかなり巨大な自然石に並べられている。持主の意図なのか、足下には小銭の賽銭が上げられている。

素材に使われている石はどの地方のものであろうか、幾分柔らかめに、粒子が荒い為かあるいは粗悪ともみえる膚は、うす墨を掃いたかのように、ほのかに蒼い。二百年は経っているであろうか。

眉は怜悧に孤を画き、切長の眦はわずかに笑みを浮べ、いな、この童女をそのままモデルにしたかと思われる貌は、唇一つの為に、おそろしく優しく、おそろしく柔和で、そしてあるいはシニカルにさえ思わせているのだ。

これは聖観音なのであろうか。頭上から額にかけて何かの泰西名画で見たような布をかつぎ、そのままその布がなだらかにゆたかに全身を覆い、やがて布は台石に繋がる。

わたしはその布と、台石とのわずかな間に、ほんのかすかに覗いている幼児さえもさこそと思われる、あやに優美で可憐な足指に見とれるのである。向って左にかすかに全身を傾け、覗き込みでもしない限りは、その貌を定かに望むことは不可能なばかり、ひっそりと俯き、ひっそりと佇む、この聖観音の足元は、指は、あまりにもいじらし気であるが故に、妙に人間的で、思わず膝まづき、縋りたい。そっと唇をあててみたい。

わたしは欲しいと思った。どうにも、つねに身近かにありたい欲望に堪えることができないのである。

古いもの、時間の中におき捨てられて顧みられなくなった物、そんな物に心魅かれるわたしは、殊に美しいと思った物は、あるいは無理をしてでも掌中のものとし、又はなかなか忘れかねている物も多い。しかしこの聖観音（あるいはマリア観音かとも思われる）はわたしは、それらとはまったく別のものであることに気がついていた。おおげさに言えばわたしの全生涯、わたしの全財産を引替えにしてもよい。

わたしの思いに水をさすかのように持主は不在なのである。わたしは店の中年の女性に、いかに自分がこの観音に焦がれているかを伝え、手放す意思があるのなら、必ず教えて欲しい旨を依頼したのだった。

忘れようと思った。忘れるべく努力をしたのである。けれど、あのシニカルな微笑を忘れるべくもない。一ヶ月後、ついに電話を入れることになる。結果はやはり否であった。持主は、そんなにお気に入りなら貸してあげることはする。けれど知人からの戴き物なので譲ることはできない。

わたしは同好の士の持主の心づかいに感謝しながらも、何とも無念なのである。何ともくやしいのである。

物にたいする執着がいかに愚かしいか、いかに人を不幸にするかを思いながらも、欲しいのであるただ欲しいのである。常住座臥身辺に共にあって欲しいのである。それが絶対に不可能であることを知るだけに。

（56）清水　義幸記

塩田城の興亡とその城趾

（13）　馬場友義

塩田北條氏の始祖北條義政は塩田庄在住、僅か数年で歿したが其の嫡子北條国時は其の嫡子俊時と共に五十有三年の間、塩田城主として統治した。その頃が塩田北條氏の全盛時代で鎌倉との交流が多く鎌倉街道（沼田城より発し、古安曽、砂原峠を越え、辰の口、腰越、依田、佐久郡を経て碓氷峠を越えて上野国より武蔵国を経て鎌倉に通ずる軍用道路）を開通し、大いに鎌倉文化を導入し、塩田地方に鎌倉文化の華が咲き「信州の鎌倉」「信州の学海」と称せられた。別所村の安楽寺の八角三重塔（国宝）前山村の前山寺の三重塔（重要文化財）は此の時代に建立されたものである。

元弘三年五月新田義貞が上野国新田庄に於いて兵を挙げ鎌倉幕府の執権北條高時を攻撃するや、其の報を聞いた北条国時、俊時父子は軍勢を率いて塩田城より出陣し、鎌倉に馳せ参じ北条高時を授けて奮戦したが戦利あらず敗れて同年五月二十二日、鎌倉の東勝寺に於て執権北條高時以下一族一門八百余人と共に悲壮なる最後を遂げここに塩田北條氏は滅亡した。

室町時代に入るや信濃国更級郡村上庄の豪族村上信貞が足利直義の軍に参加しその軍功の賞として塩田庄を与えられ、塩田城は村上信貞の有に帰し、その代官として家臣福沢氏（信濃国埴科郡坂木庄）が城代となった。

塩田城は初代福沢入道像阿より左馬助信胤、五郎清胤、左馬助政及その子孫が百九年の長きに亘って塩田城を守護していた。

天文二十二年武田晴信は塩田城代福沢氏を攻撃して塩田城を占拠し家臣飯富兵部少輔虎昌を塩田城代となし之を守らせた。

爾来武田信玄、勝頼の父子二代に亘って塩田城を領有していたが天正十年三月武田氏滅亡するに及んで廃城となってしまった。

塩田城趾は長野県上田市塩田町大字東前山の弘法山の中腹にある。

東前山部落の旧城下町の中央通りを真直じ南へ上って行くと空堀跡があり、その手前に守護所跡がある。更に上ってゆくと「塩田城趾入口」の道標が建っており、その横道に突当ると此処が昔の枡形の跡で、そこより更に二〇〇米程上ると「塩田城趾の標柱が建っている。その両側の崖下には一大空堀があり、長さ百八十米余に亘っており、昔の面影を残している。

そこより弘法山の中腹にかけての一帯を「御前」と呼ばれており、そこには数十坪から数百坪に及ぶ広さをもつ削平地が二十一段に築水の涌出する泉がある。更に少し上ると「虎の口」という砦の跡が残っている。最上郡の平地が本丸趾である。そこには二本の古松の下に苔むした二基の石碑が建っている。中央に建っている大きい石碑は高さ一、二米、巾七〇糎で碑の表面には左の通りの文字が刻まれている。

正慶二癸酉年五月二十一日
龍光院殿前朝参大夫
教覚道祐大禅定門

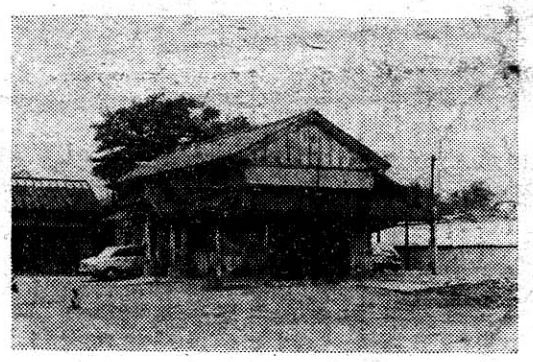
塩田陸奥守入道道祐平朝臣国時、此の大きな石碑の左側に建つ小さな石碑は高さ一・〇五米幅六糎で碑の表面には左の通り文字が刻まれている。

塩田陸奥守殿家臣亡霊供養

前者の石碑は塩田陸奥守北条国時の墓であり、後者の石碑は塩田陸奥守北条国時の家臣の供養塔である。塩田城趾の西側の山峡を下った宮本町部落に塩田北条氏の菩提寺臨済宗の古刹宝樹山竜光院があり、塩田城趾の南側の神戸部落、上方に真言宗の古刹独股山前山寺がある。

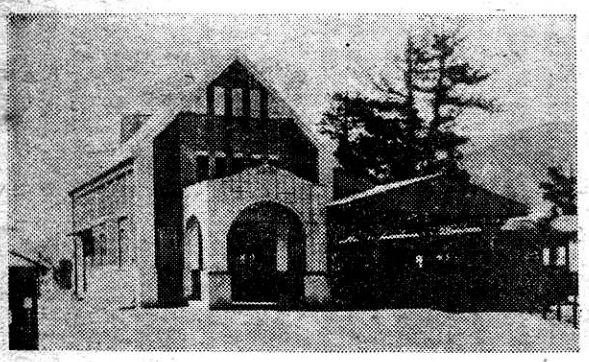
旧

上田東駅



新
（昭和49年10月）

かつての丸子電鉄の上田のターミナルステイションと言っては大げさであるが、この駅を毎日利用した土手がらす連中も多かった。現在はレールも撤去され、駅前広場は貸駐車場になっている。



旧

北上田駅

新
（昭和49年10月）

真田、傍陽方面行の当時温電と言われた電車である。この鉄道も既に廃止されて、建物は上田交通旧温電の広告事動所に使用されている。

商業建築
室内装備・装飾　設計・施工
（有）沖央インテリア総業
瀬下昌孝
（56期　東部町出身）
本店・台東区根岸3－6－21
TEL（874）8917（代）
船橋店・船橋市馬込沢駅前
TEL 0474（38）7447

一級建築士事務所
柏葉設計所
主宰　石倉謙一（35期）
〒177　練馬区富士見台1－9－20
電話　03－999－2401

T.K.C東都計算センター
堀内税務会計事務所
税理士　堀内茂雄（44回）
堀内良幸（55回）
半田嘉道（55回）
東京都墨田区業平4－9－3
TEL（625）2291（代）
（出身地）小県郡真田町）

同期会の集い

三三会に43名

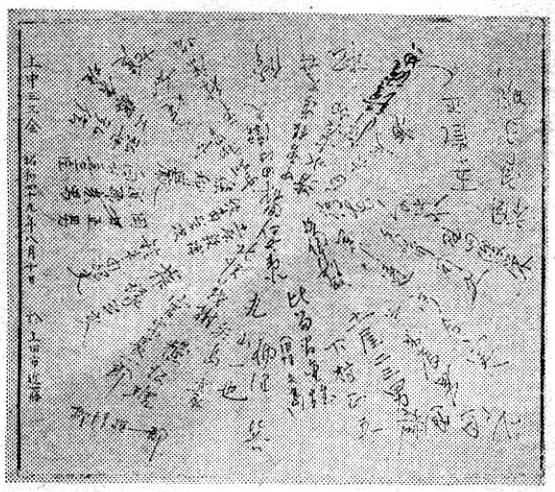
松田先生ご夫妻を囲み

七十七才、山形から参加

上田市内はお盆の客寄せの飾りつけで、各商店が大売出しを競っていた。その八月十日に、海野町の高級レストラン「近藤」において、三三会が開催された。今回は山形県から遠路はるばる恩師松田先生が奥様と同道でご出席をいただき、会合の雰囲気が一段と盛り上ったことはいうまでもない。

一応、懇親会の議事次第として矢島幹事の司会、丸山幹事の会計報告、松田先生のごあいさつ、各人の自己紹介と一通り議事が終ると、思い思いに車座になって歓談がはじまった。

なにしろ四十年ぶりに再会する同期生もいて、感無量とばかり感激に浸っているもの、松田先生から励まされた思い出、叱られた思い出を披露するものもあって、話題は次から次へと燃え拡がり果てしない。多数の発言者の中から二、三の発言をひろって、楽しい会合のムードの一端を知って頂くこととしよう。



矢島幹事の発言「会名の由来は昭和九年つまり三三が九というので口あたりがいいわけで、また、さんざん苦労したということもつけ加えて、三三会がよろしいというように会の名前が第二回目のときからきまりました。本日の欠席会員の中で依田勝氏、この方は岩村田高校で野球部の監督をしていますが、野沢北校と佐伯鶴城校の試合に朝日放送に招かれてゲストとしてただ今テレビに映像中で、なかなかさかんなご活躍、これも喜ばしいニュースかと思われるのでご報告申しあげます。次に上田高校同窓会関東支部から祝電をいただいておりますのでご披露いたします。（暑さにもめげず、年ごとに集う各位のご健康とご発展を心からお祈り致します。関東支部幹事長神野勝男）」

松田先生のごあいさつ「懐しいというか、うれしいというか、実は今日皆様の前でキッカケをつくってくれたのは矢島警君。去年も一昨年もハガキをくれて、こういう会合があるという通知をいただくと、アア何とかいい機会があったら行ってみたいなあと思って、とにかく忘れた顔も多いだろうけれども、思い出の中で上中五年間のことをいろいろと思い出すわけです。今年はちょうど七十七歳になろうとしています。ここに女房をつれてきているが、今年で結婚丸五十年、こういう時に諸君にまたお目にかかれた。私が上田中学に参ったのは昭和六年さようならしたのは十一年、ちょうど諸君が卒業すると同時に上田中学をやめたという因縁があります。

山形県へ参って三十七、八年になりますと、故郷の信州に帰るのを忘れてしまったような気持ちです。それでも女房とよくいうんですが、野球なんかあって長野県チームが勝ったというと気持がいいんです。しかし、三十七、八年にもなると、山形県人らしくなります。ただ今は社会事業として老人ホームの蔵王長寿園の仕事をしています。話はこのくらいにして、後は皆さんと歓をつくしたいと思います。皆さん今日はどうもありがとう。

鈴木由紀夫の発言「本日は予期もしていない松田先生にお目にかかれて、本当にうれしく思いました。同級生の殆んどの方には四十年ぶりにお会いしたわけです。顔をいくら見くらべても思い出せないのです。棚沢理一郎君のあいさつを聞いて横顔を見ているとやっぱり昔の面影があるなあと思うのであります。現在、愛知県境で農業と牧場を経営しています。どうぞ今後ともよろしく。」

歓談につぐ歓談の締めくくりとして、奥様の音頭で野球部の応援歌を合唱したが、さすがに野球部長先生の奥様だけあって、歌詞を違えず若々しい声を張り上げられたのは実に印象的であった。

出席者は次の四十三名。

松田仁兵衛先生ご夫妻（山形県）

甘利利男、飯島栄次、押鐘隆典、太田速雄、河合　実、工藤康雄、近藤光男、相良文明、清水金次郎、下村正五、白木正典、関　透、田口正男、竹内賢三郎、田中淳夫、土屋敦啓、中曽根道夫、中村辰男、橋本千秋、平林康治、松井　修、丸山一也、満木頼春、宮尾利雄、宮原長一郎、矢島周司、矢島　亮、柳沢　巽、柳沢理一郎、横沢　理（以上上田の在住者）

五十嵐正人、白井善臣、椎塚三夫、土屋三男、野田俊栄、橋本利政、弘世弘信、比留間金雄、保科　巌（以上在京者）

北沢茂樹（滋賀県）

鈴木由紀夫（愛知県）

（33）弘世弘信記

48年目のご対面も

第26期の在京同級会

第二十六期は卒業生百五十九名な中百名が健在、うち三十名が首都圏にいる。八月十六日、東京農林会館においてクラス会を開催、十一名が集まった。お盆のため支障が多かったようで、次からはこんな日は避けてやれという注意を受けた。

出席したのは同窓会大会の常連が多いが、中には中学卒業以来初めて会う顔もあり、懐旧談がはずんだ。郷土在住の諸君からメッセージが届き、二年後の昭和五十一年は遂に五十年記念祭になる、そちらでも何か考えろという。改めてお互いの光頭、白髪をながめあって感慨をもよおす。

信州の級友の間には五十年目の同級会をユニークな意義深いものにしたいという、ウツボツたる動きがあるようで、そのせいかこの夜はムードがもり上り、もっとひんぱんに集まろうと申し合せた。

出席者は次のとおり。

石井一美、工藤一三、小山正徳、酒井論一、坂田隆雄、高野貢、田口喜一郎、塚田通明、本堂知道、宮崎久登、滝沢傳

（26）滝沢　傳記

箱根で尽きぬ懐旧談

24期 卒業50周年記念会

上中二十四期生の卒業五十周年記念同級会は、去る六月八日箱根小涌園で開き、二十八名が出席した。大正十四年卒業当時は、百十一名だったが、すでに五十名も鬼籍に入り、現六十一名が、元気に各界で活躍している。

この日、信濃路からは十六名が参加、同園貴賓館へ迎えられ、東京組に合流した。建物は、平家建の和室だが、総檜造りで建築の粋をこらした洒いもの。さらに種類豊富な樹木と巨石を配置した、すばらしい庭園が展望されるといったたたずまい。かって、藤田観光前社長夫人の別荘だったとか。それからあらぬか、ほのかになまめかしい雰囲気が感じられた。

寄せ書きをしたあと、宴会場に移り、まず、物故者の面影をしのびつつ黙祷を捧げ、続いて乾杯、そして全員が近況を報告。宴席には箱根湯本の美形連もはべり『箱根の山は天下の険…』の踊りを披露、先生たちは『秋玲ろうの空つきて…』の校歌を合唱、また懐旧談もなかなかつきず、しばし時を忘れた。

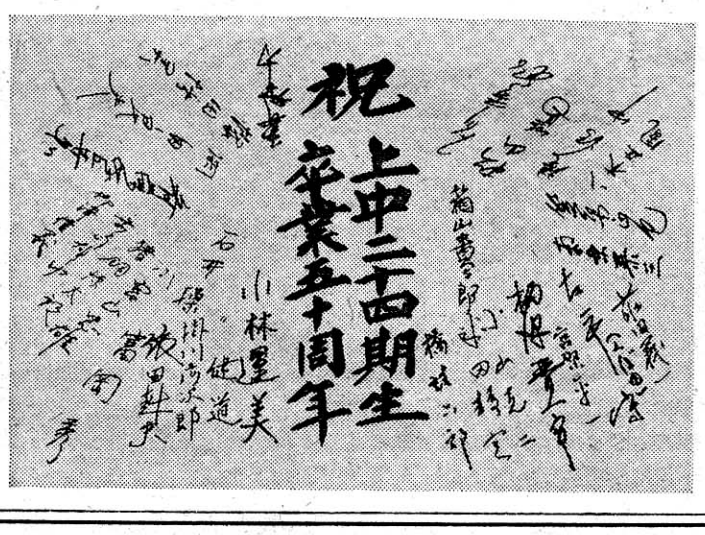
その間、笠原君が上田高校舎改築運動とグラウンド敷地購入の経過を、斎藤君が、業生の物故者調査などを報告。富岡君が蚕の増殖研究について興味ある話題を提供した。

九日は朝食後、貴賓館の庭園で記念撮影をしたあと、再会を約して解散した。一方有志十二名は、三台の自動車に分乗、新緑の声の湖スカイラインを一周、快適なドライブと景観を楽しみ、昔の箱根関所跡や資料館などを見学した。

出席者次のとおり。

石井　操、石川秀敏、猪飼源太郎、岡田良夫、掛川彦次郎、笠原正己、小林重美、小林健道、古平　守、小宮山忠雄、小山克二、斎藤佐五兵衛、滝沢　中、玉井常刀、塚田博美、富田　秀、南条泰三、箱山貴太郎、橋詰六郎、半田静足、前島雄之助、前田義一、松山　篤、宮原平一、八木正風、柳沢晋一郎、柳沢信義、依田君夫

（24）猪飼源太郎記



心豊かに楽しく

染谷と初の会同同期会

いつまでも厳しい残暑が続いた今年もやはり台風の去った後、さわやかな秋空を仰ぎ、夜毎にしげくなっていく虫の音を聞いて夏の終りを感じます。あの強烈な夏の日を受けて新宿に集った日のことが昨日のように思い出されます。

それは合同同期会というより、小学校のクラス会を合同で開いているといった感じの方がぴったりの会であったように思われました。会は先ず上くなられた方に心からの黙どうを捧げて始まりました。

私たちの年代は戦争のために、数多い友をなくしたという思いは、今どういう集いを持ってふりかえる人生の中でしめるものの大きさを改めて感じました。特に兵士として戦場で過ごされた方々の尽きようともしない話を聞きながら、その時また銃後にあって過ごした日々の事が思い出されました。

二十年ぶりの再会に、若者の如く喜び合う方々、また静かにその日見えない友のことを案じ、その消息に耳を傾けるカップルなど、ふる里を基盤にした話は弾みました。かっての腕白小僧に、おさげ

（5面に続く）

「家は夏を旨とすべし」

洋間の断熱処理に配慮を

日本では兼好法師の「つれづれ草」にもあるように、家は夏を旨とすべしと言われてきた。北海道のように、冬とくに寒冷の土地は別として、日本では一般に高温多湿の夏の気候を主眼として、即ち夏過ごし易いように家を造るのが良いとされてきた。ところが現代のようにクーラーなる便利なものが一般化されるようになると、そんな事はどうでも良いと考えられがちである。しかし果たしてそういう考えで良いかどうか？

とに角電気、ガス、石油等のエネルギーの消費は年々増加の一途をたどっているが、こういうエネルギーは決して無限のものではないという事は周知の事実。首都圏だけについて考えても、発電所一つ造るにも、その用地を確保する事で先ず大きな壁に突き当っている状態からしても、安直に電気はいくらでも供給されると考えるのは危険であろう。

今年の夏の始め頃であったと思うが、毎年夏の全国高校野球大会、炎天下の決勝戦ともなればテレビは全戸スイッチオン、ビルも住宅もクーラーはフル運転、そんな時、たまたま光化学スモック警報でも出ようものなら、ソレ燃料規制とばかり、電力会社にとっては正に最悪の状態。それを考えるとゾッとするというのが電力会社関係者の偽らざる心境であるという記事を読んだ事がある。

したがって今後は住宅ではクーラーに全面的に依存する訳には行かないと考えた方が無難であろう。そうすると家は夏を旨とすべしという室町時代の思想は現代でも通用するといえる。ただし具体的に建物の構造をどうするかという点では昔と今とは、その床に断熱処理を施してあるものは皆無に近い。

今でも農村に見られる寝室の屋根、あれは断熱性能が非常に優れた屋根である。瓦葺の屋根でも昔の家は屋根裏のふところが十分広く、天井もまた高いので、ことに屋根に関しては、昔は特に夏を旨とすべしと意識的に考える必要はなかった。しかし現代は違う。特に鉄板葺の屋根の場合は断熱材が無ければ夏非常に暑苦しいものになる。

最近のプレハブ住宅は一般に居住性については可成り考慮されていて、屋根や外壁に断熱処理を施したものが多い。しかし案外盲点になっているのが洋間である。応接室、居間、台所のように床が板張り仕上げの部屋は、その床に断熱処理を施してあるものは皆無に近い。

夏の暑苦しさを防ぐことはもちろん大切であるが、冬の暖房費を節約する為に、極力ヒートロスを少くする事もまた重要である。和室の場合はたたみが十分に断熱性を持っているから良いが、洋間の場合は床板の厚さはせいぜい一五㍉程度のもの一枚である。カーペットを敷いてもその厚さがまた似たようなものに過ぎない。したがって床の保温性能は和室の方がずっと良いということになる。そこでこれから家を新築、増築しようとする人に洋間の床にも十分な断熱処理を施すようおすすめする次第。

（35）石倉謙一記

小料理
味　川
（36期の巣）
東京都港区新橋3—17—2
中条ビル2階
（新橋駅烏森口から徒歩1分）
電　話　436—6563

日本の伝統文化を守る
神野文芸学園
学園長 神野勝男（36期）
船橋市前原西2—32—15
電　話　0474—74—0543

歯　科
滝　沢
滝沢英統（54期）
東京都豊島区東池袋5—35—2
TEL（984）5938

在京啓明会盛大に開く

思い出の丸子依田窪

染谷の同志と語り合う

「夕陽、千曲の水面に、映えたる朝、輝きて……」凱歌のが一節ふと口から出てくる。

喜びにつけ、悲しみにつけ思い出すのは上田高校である。上田高校はもう身についている。あの若い青春時代を送った思い出は、忘れようとしても忘れ得ぬものとして、脳裏に焼きついているのであろう。

その上田高校と啓明会。これは

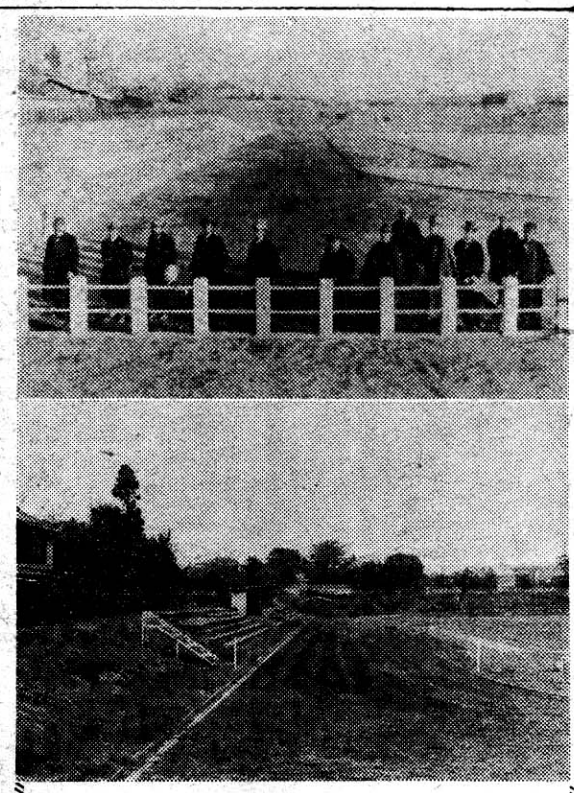
また依田窪出身者にとって、切り離すことが出来ない追憶の一ページなのである。

放課後、三々五々、丸子小学校の校庭に集まったわれわれは、ある時は野球に興じて白球を追い、ある時は試胆会で、お墓の前でコワゴワ自分の名前を書いている一年生の片頬に、頭上の松の枝から垂らしたコンニャクをピタとくっつけて気絶させたり、ある時は通学電車の中央に乗車（電車は中学生と女学生がそれぞれ前後に半分宛乗っていた）し、女学生に近づいて、生意気だと便所の裏で上級生になぐられたり……その青春群像は思い出すと枚挙に暇がない。

そんな若い頃を思い出して、何とはなしに集まって、丸子や依田窪の話でもしようと、在京啓明会が組織立てられたのが昨年であるが、今年は昨年の勤務に基づき、上田高女の皆さん方も地域を同じにした仲間なのだからと、連絡申し上げたところ、かってのハイヤーが多勢御集り戴いて、男性群の方がたじたじの態であった。

幹事を督促して、会の早期開催を促すとともに、多額の寄附を行って会の運営に殊の外、気を配って居られる土屋学会長のあいさつに始まり、来賓の竹内敬太郎先生の丸子の思い出や、名誉会員の矢島五郎副支部長の丸鉄談義に話が及ぶと、会も佳境に入り、自己紹介を兼ねた思い出話に、丸子や依田窪を思い出して、望郷の念切々として夏の一夜の更けるのを知らない有様であった。

染ヶ谷丘の側からも、連絡係として、副会長野間朋子（28回）幹事



写真㊻（旧）の立看板には「上田市営運動場落成記念」の文字が読みとれる。

ここに写っている人々は当時の市長を始め、市のお歴々であろう。当時のトラックは一周三〇〇Mであったが、現在は四〇〇Mに拡張されている。

（49年10月）

新旧スナップ（その3）

市営グラウンド

小山福子（45回）、早川信子（50回）の御三方に発起して戴き、来年はもっと盛会にしようと一同張り切った次第。

いずれにしても、東京で故里の味を、チョッピリ味わった楽しい新宿の夜でした。

出てよかった

来年も楽しみに……

染谷丘高　野間朋子
〃　早川信子

思いがけない啓明会からのお誘いを六月いただきましたが、ちょうど演奏会に追われておりましてお返事もせずにおりましたところまた七月十七日の開催のお知らせを受け、いろいろお骨折りいただいた方の御苦労に感謝の意味もあり、時間的にも体の空いた日だったので、妹や姪をさそって出席させていただきました。

どんな面々がお見えになることかと、縫島さんと話して知らない方ばかりだったら、自分達の親類会のつもりで参加しましょうと参りましたところ、自己紹介が進むにつれて、昔からの親類の娘さんだった方や、懇意の方の息子さん方ばかりで、一気に皆さんの空気が和やかになりました。ほんの息抜きのつもりで出席したのに、来てよかったと感謝の気持で一杯でございます。

丸子を誰にも負けなく愛している私は、丸子が引越してくれたようなうれしさを感じました。年一度の開催のお約束を楽しみに、来年は今年より一人も多くの皆様とお会い出来るのを今から楽しみにしております。

乱筆ながら会長初め、幹事の皆様の御苦労に心より御礼申上げ筆をおきます。上田高女（28回）野間朋子記

42期の関東地区同級会

台風にもめげず 一〇〇%の出席率

午後二時半会場の箱根湯本温泉天成園に着いた。同期の佐藤次郎当園営業部長の出迎えを受けて共に部屋に入る。台風16号の余波が残る現地は、小止みなく雨が吹きつけ、時々思い出したように激しく降る。今日は九月二日の日曜日しかも一泊の同級会としては日が悪かったかなあ、こんな天気では出席率も悪かろうと心配になる。

一風呂浴びて一服していると、フロントからお一人様到着、またお二人様到着と、次々連絡が入り急に活気が出て来た。故郷からも水野春海君が代表で到着、暫くして恩師の宮坂軍太郎、竹内敬太郎両先生と顔ぶれもそろって来た。

こうして集合時間の午後六時には予定人員百%の全員が集合、心配が取越し苦労に終った事を喜びながら開会に入った。

なにせ卒業以来三十一年振りで今う者も多く、顔と名前が一致しないのが出てくる。しかし暫くすると、やはり幼い面影が残っており、昔の土手鳥時代の懐かしい思い出が、ふつふつと湧いて来た。自己紹介が始まる頃は箱根芸者の酌に顔を赤らめて、一言居士を以て任ずる連中が、滔々と述べるので仲々時間がかかる。それでも三十年間の過ぎ去し方を語るには余りにも短い時間ではなかったろうか。

やがて佐藤君心尽しの旅館専属バンドが景気をつけると、応援歌や凱歌、寮歌が次々とび出して来て、会は益々活況を呈して来た。

竹内先生も大分ハッスルして「お前らとの歌を知らなければ卒業証書を返せ」と大声を張り上げて叱咤したが、誰も知っている様子もない。中には自慢のノドを聞かせる者もあるかと思うと、女性相手にダンスに興ずる者も出て来て、寝は何時果てるともなく続く。

これじゃ旅館に迷惑をかけるので部屋に引上げて二次会をしようとしたが、どうせ迷惑のかけついでだ、この場でやろうと衆議一決またまた互いに肩を抱き合いながら酒を汲むこと数刻、遂に十二時近くなり、全員万歳と凱歌を声高らかに合唱して宴を終了した。千鳥足で部屋に入ったが、そのまま寝てしまう者も少い。またまた話は尽きないようだ。ついに床にもぐり込んだのは午前一時を大分過ぎてしまった。

こうして楽しく、またうれしい日は暮れ、翌朝は朝食を共にしながら、近い将来再び相まみえる日を約し、互いの健康とそれぞれの道への活躍を祈り合い、遠く故郷野君に感謝を申上げ、地元同級生より参加して下さった両先生と水高等女学校に入学したクラスという、染谷では三四期である事が判ったので、われわれ三五期と染谷の三四期との合同クラス会を開催したという次第。

集まった面々は、染谷側は諏訪部のぶい、角田哲子、森澄江、関亀代子、野尻富美子、広川功、関みつ、井伊照子、喜多尾秋子、小坂節子、土屋千里、以上一一名の会員の外、後輩の久保田恭子、山崎正子、会員の家族の丸山万里子、同ひとみ。中学側は城田賢、中山順蔵、樋口正賢、北村武敏、山崎行則、小宮山隆三、塩入常雄、滝沢正、出浦昌一、大井卓雄、同夫人、石倉謙一、花岡偉。

新宿における会が終って、会場を池袋に移して第三ラウンドになると、女性側は急に優勢となり、会員一一名の中九名が出席、これに対して男性側は九名に減少、劣勢となった。一部の意気投合したグループは第三ラウンドまでやったとか、やらなかったとか。確認できなかったのが残念というところ。

（4面から続く）

髪の女の子。その話し声も、またその歌声も、若々しいその日の参会者も既に五十路の半を越え、人生の旅路の険わしさもようように一段落というところでしょうか……。

「いくたびか語りしことに気づきつつ語るに妻も知りつつ答う」

（関根京平）

ふとこんな歌が思い出され、しみじみと心にふれる境地を迎えたいま、これからの人生をこそ、心ゆたかに、楽しいことは一つでも多く重ねて、しっかりと足あとを残したいものと思います。

みなさんの御健康を心よりお祈り申し上げ、このたびの初の試みに、大変御骨折りいただきました両校の幹事の方々に厚く御礼を申しあげます。（九月十七日）

（上田高女34）諏訪部のぶい記

染谷側から15人も参加

実は吾々三五期のクラス会は昨年の会の席上、次回は一つ染谷と合同でやろうではないかということで衆議一決した。そこで染谷に呼びかける当り、われわれと同年兵、つまり同じ年に当時の上田

記念写真をパーに これにこりず次回も

今回は染谷のみなさんもお招きすることになり、ワクワク、ソワソワ、会社にいても、みんなから、よほどうれしいことがありそうだ上のネガが全部ダメ。

奮闘努力のかいもなく……とかの歌の文句どおり、厳しく自己反省の日を送っています。

これにこりず、また次回も、ぜひ参加させていただきたく、この際、みなさま方におわび申しあげます。

（42）浅野敏正記

東京の空にも星があつた

ひさびさに夜空を仰ぎみて、東京の空にも星が、またたいているのひびき。――僕は始めて泊った観光亭の二夜を忘れる事が出来ません。杏の実がパタンパタンと音を立てて庭に落ち、さわやかな風が熊笹の間をふきぬけ、千曲川を越えて小牧村の灯が夜光虫のようにチカチカと光っていた夜を」。

（中略）

「世界の法則を見出し、その法則に新しい性格を与えながら、人間のために、少しでも貢献するということ、僕は自分の精神の〇〇〇なりとも、何んとかして諸君に与え、それによって諸君が一日でも早く自覚めて、僕とともども人類の足跡に、新しい足跡を附け加えてくれるであろうこと切に祈るのです。ひとりの力では出来ません」（後略）

「祖国の持つ美しい誇りを世界に示すには真実に知恵の訓練をして下さい」と結んでいる。

紙面に限りがあるので、毎年一回はこの「一平」で開くことを決定、さらに郷里の同期生と計って（一）同年物故者の法要（二）母校に記念品を贈ること、の二点を決議した。最後に関東支部より贈いた六文銭の手拭で全員が鉢巻きをして大いに母校の歌を歌って散会した。

（44）貝野貢造記

石塚先生の手紙に感激

獅子の会に16人

秋の気配に包まれた上野の森の不忍の池に近い「一平」で私達四十四回卒の獅子の会が行われた。今回は参加者十六名、恩師竹内先生と今度関東支部の副幹事長に就任した柳沢広氏が特別参加してくれ会が一段と盛り上った。現在関東支部には八十名近い同期生がいるのだが、そのうち四分の一の出席だからまずまずである。

特筆すべきは、三重県から神津君が参加したことである。しかも中学時代に交信した葉書やら、彼が生命をかけて国を守ろうと予科練に入隊した頃の千人針の御守。寄せ書き入りの日の丸の旗がしみじみと回顧され、懐しいやら感慨深いやら、人それぞれの生き方に胸にじんとくるものがある。

中学二年の担任として私達に強い感銘を与えてくれた石塚為雄先生の手紙もその中にあった。三十二年前のことを思い出させる先生の手紙の一部を紹介しよう。

「ちょうど丢年の今頃でした。僕が碓井峠を始めて越えて信濃路に入り君達に出会ったのは。青い高い空、はっきりと撓を持った雲山々や樹木の力強い表情、ジッとしていても何かむこうから迫って来るようなものを持っている自然ふとよみがえった青春の思い出かつての若者たち、喜々として瞰を輝やかせ参集。

丸鉄の車中、胸をときめかした君は、こよいの宴の席に……？

記念撮影はマッチの光に消えた由、シワが残らず救われたようなチョッピリ残念なような。

（染谷丘高）早川信子記

守り続けよう 美しい想い出

丸子鉄鉄で通った想い出話でにぎやかだった。

……われわれの時代（昭和五年頃）には、まだ染谷高女生の中には、和服に袴、黒のハイヒールでおさげがみの姿もみられ、紅顔のわれわれ美少年たちの胸をドキドキさせたものだった。

……そんな話で、また笑いこけた啓明会のひとときを、美しく、大切に、今後も守りつづけていってほしいと思う。

（31）矢島五郎記

郷土の味を贈りましょう

信州極味噌醸

山吹

信州味噌株式会社
本社／東京都新宿区下落合1―523
工場／長野県小諸市甲2905

〒160
（信州小諸 山吹みそ）専売店
東京都新宿区四谷三の九 田中ビル
株式会社 信州屋
TEL 三五七一五〇一五
（36期）伊藤東四次郎

小さな店です
店の小さい事は恥かしいとは思いません
誠実、思いやりの少い事は恥かしい事だと思います
酒類、煙草、食料品、調味品
銘柄も品数も少いかも知れません
あたたかな人間味で溢れさせたいのです
ビールは一つの銘柄
アサヒビールに情熱のすべてを傾けたいのです
大変な事です
大変な事だからやりたいのです
思う事はたやすい事です
行う事は難しい事です
はげまし、叱り、
そして後押しをたのみます

原嶋貴石株式会社
取締役社長 原嶋佐吉
本社 東京都新宿区三栄町7番地（原嶋ビル）
電話（357）8861（代）～1（359）6414（夜間専用）
工場 東京都東村山市秋津町2-1184
大阪支店 大阪市南区鰻谷仲之町26（東心斎橋ビル）
新宿・京王百貨店　柏・高島屋
上野・京成百貨店　玉川・高島屋
大宮・高島屋　池袋・西武百貨店
東京・高島屋　渋谷・西武百貨店
横浜・高島屋

療養の身で同窓を思う

関東支部の諸兄のご尽力による活発なる活動によって、機関誌「うえだ」を通じ、同窓の皆さんのご活躍振りその他の消息を知ることが出来ますことは、長く娑婆を離れておる者にとって、大変なよろこびであります。「一期一会」写真と共に懐しく拝見致しました。

小生沼田と同級、従って有郷兄とも同級、中風病臥中とのことご同情申し上げます。沼田とは背が同じ位だったので、五年の時には確か隣の席だった様に記憶しております。桐生高工を卒業後入隊、察するに生のいい見習士官だったろう。

フィリッピン戦線で20・4・10に戦死、比星院忠傑義僧居士となった。軍隊で同窓の先輩に出会うのは嬉しいものでしょうね。なかなかそういう機会に恵まれないものです。小生十八年の繰上げ卒業で、松本の部隊に入隊、（四〇期）では小相沢、金沢、先輩では栗道部の三六期宮下さん等と一緒、金沢は期日帰郷）すぐ満州に渡りましたが、満州で出会ったのが一年後輩、幹候の上等兵で、近く予備士官学校へ出発とのこと。「幹候の参考書やるから一中隊へ来い」なんていわれた一つ星の"新兵のあわれ"。幹候の試験位に頭下げてそんなものもらいにその中隊までゆけるか、と思ってとうとう行かなかった。

こっちが幹候の上等兵になった時入って来た初年兵の中に、中学の同級生がいた。予備士へ行くまでの半月程を、その初年兵の班付で過ごしたが、「候補生殿」なんて呼ばれるのが心苦しく、二人だけの時には止めてくれと頼んだものだった。

個室を持っている訳ではないので二人だけという訳にもゆかず、酒保で買って帰ったウドンも、彼だけに食わす訳にはゆかなかった。戦後の同級会で思い出話に笑い合ったものだったが、小生の出合った同窓生で戦死した者はいない様だ。船舶幹候隊では同期の岩下連や、土屋（40）などがいたが中隊が違ったので、ゆっくり話す機会も無かった。それから「中野学校」を出て長野地区司令部で終戦を迎えたが、「二俣分校」を小野田少尉より一期後で出た〇山（41）が、上田の地区特警におり休暇の野明先生が、軍曹で彼の下にいた。戦後中野学校の先輩の中に、三内金井忠義なる名を見出し同期の方に尋ねたところ、上中の先輩、小生一年の時の五年楽道部で、上田蚕専に進まれたという記憶の確かであることがわかった。

婆娑の学校と、軍隊と重った人達は特になつかしいものです。戦争はもう随分と昔のこととなってしまったが、思い出は鮮明です。それが短い期間であったとしても青春の全力をぶっつけての時代であったから、皆「いい奴」だったということでしょうか。もう十数年にもなる長い療養生活を続けていますと、思い出に浸っている時間が多くなるのです。

戦後東京での同窓会に、初めの頃は出たものです。いつも上田から校長と同窓会長が、揃って上京深く頭をたれて寄付金を頼まれたものです。山浦貫一先輩が、一度寄付金のない同窓会をやりたいものだなあー、といわれた言葉が、印象強く思い出されます。会を運営するには会費を納めて貰わなければ困る。会費を納めないからといって、会員ではありませんという訳にもゆかない同窓会です。

（38）宮島政已記

「来て良かった」

わんだれ会菅平へ

既に本会報にも何度か報ぜられた「わんだれ会」も、発足以来三年以上経過して、その間に幹成メンバーにも変化が見られる様になった。何しろ会場が何時も矢島副支部長の会社、即ち矢島鋳工社の事務所であり、飲食のうち食の方も亦、同社の女子社員が心をこめて作る料理であると云う事情からも、同社の社員がメンバーになるのは自然の成り行きであるとしてその外に「染谷のおんなしょ」も数名が常連になっている。又上田高校系の会員の知人で、本会の何とも言えぬ楽しい雰囲気に魅せられて参加している人もいる。この様に本会は、単に上田高校同窓生の一部の者だけの集まりと云う性格を脱皮して、色々な人達が集まる会に発展してきたと云う事が言える。

このような「わんだれ会」が本年八月の一八日、一九日の両日にわたって、菅平で催された。何故菅平が選ばれたかというと、矢島鋳工社の厚生施設として、菅平高原の別荘地に保養所が昨年建設されたので、「わんだれ会」がそれを利用させて貰うことに相なったという次第。

当日は、午後二時までに上田駅前の交番前に集合ということを一応事前に打合わせておいたが、保養所を既に知っている人達の中には、一足お先に行った人もいたようである。国鉄を利用した人、車で行った人、その他前日の十七日は、たまたま税友会の集まりが上山田温泉で催されたので、上山田から合流した人もあり、夕刻の四時頃には全員集まった。集まった面々を見ると、男性は勿論のこと女性や子供達の顔も見られ、誠に多彩な顔触れである。というのも夫人同伴の人もあれば、さらに子供連れの人もいると言った工合でなごやかな雰囲気である。

此処は旅館ではないから食事はわれわれ自身で作る事になるが、そこは料理にかけては腕に覚えのある女性方がずらりとそろっているので、男どもが台所でうろちょろしては、むしろ邪魔になるという様な事で、女性方に一任する事にした。ただし材料の仕入れは男性が引受けて、旅館街の方まで車でいって、どっさり買ってきた。二〇人以上の多人数であるから、買物籠を片手という訳には行かない。全員が集まったその晩の会は、和気あいあいの裡に冗談をとばしながら笑いが絶えない。自並みな表現で残念であるがとにかく愉快であったという外はない。お互に初対面の人々もいるので、一応自己紹介を兼ねて、各自それぞれ一言述べたが、共通していえる事は「来て良かった」という言葉である。

この夜の歓談は、飲むにつれ、酔うにつれて陽気な歌もとび出し気が付いた時は十二時を過ぎていた。

一夜明けた朝が亦素晴らしい。カーテンをあけると、落葉松や白樺の林が眼の前にあり、鳥の声には身も心も洗われる思いである。都塵を離れた高原の涼気を思う存分吸っていると、改めて来て良かったとしみじみ思った次第。子供達は朝早くから戸外に出ていた様であるが、何所をとび回っていても安全そのもの。

朝の食事には男性の若い連中も加わった様で、先ずは乾杯と、のっけからビールである。前の晩の宴会の二次会が、翌朝に持越されといった感じ。それにしても朝の食事のうまいこと。御飯が足りなくなる程である。旅館の食事と違って家庭的な所がくつろぎである。

帰りの出発は二時頃と予定していたが、仲々去り難く、遂に四時近くなってやっと山荘を後にした。

ちょっと待って下さい。唯今文化放送から、矢島先生のなつかしい声が流れて来ました。これは去る6月29日上中の大会々場から取材されたもので、「7月4日1時半から放送されるだからおめた聴けや」と矢島先生から伺ってましたので、私はこの日勤めを休んで原稿書きながらこの放送をききました。僅かの間でしたが、矢島先生のなつかしい声がラジオから流れ出た時、なぜか胸つまる思いでありました。

染谷丘高校（1）　和田圭子記

「会報」贈呈先報告

本会報「うえだ」は発行の都度次の方々へ贈呈しています。

母校教職員	八〇部
母校在校生	一三〇〇部
同窓会本部	五〇部
同窓会本部理事各位	二一部
母校旧師各位	一九部
上田市役所観光課	五〇部
染谷丘高校教職員	五〇部
長野県高校同窓会東京連合会の各校同窓会代表者各位	六二部
染谷丘東京同窓会役員	三一部
大体右の各位へお送りし、お互の親睦交流の資と致しています。	

（事務局）

暮らしの中から

会報「うえだ」も回を追うことに充実した内容で、たのしく読ませて頂いております。それにしても、毎回この任に当る方々のご苦労は、さぞ大変なこととお察し申し上げます。このような大事な会報を、いつもお送り頂きありがとうございます。さて話し変って先日、女性史研究家（山崎朋子女史）の講演を聴きに行きました。この女史は「サンダカン八番娼館」という本を書いた人で、今度映画化されたそうですが、私としては、この本を読んで感動しておりましたので、女史の講演には大いに期待をもって出かけたわけです。が、どうも期待通りでなく、いささかがっかりしてしまいました。その女史の言うことには「男女同権になるには、先づ女性も男性も同じく経済的自立が出来ることである。経済的自立の出来ない主婦は完全婦と同様である」と、

これが染谷高生だ

上田染谷丘高校では八月三十一日、九月一日の二日、恒例の染谷祭を開き、学習や研究の成果を発表したが、その中からアンケートによる生徒の実態調査「これが染谷生だ」と「男女共学を考える」の一部を紹介してみよう。心もからだも最も成長の速い年代であり、したがって、一年生と三年生とでは、考え方にも大きな違いがあるため、これをそのまま現代の女子高生の平均像とみることは問題もあろうが、ゆれ動く社会の中での、ゆれ動く高校生らのところの一部を知ることはできる。

【異性について】

▽ボーイフレンドは何人がよい？①一人四五％②二三人二％③多勢三四％

▽片想いの人がいる？（ボーイフレンドのない人に質問）①いる四四％②いない五六％

▽機会があったら交際したい？（前問に同じ）①はい五九％②いいえ四一％

▽交際はどこまで許せる？①手をつなぐ五六％②キス三〇％③それ以上一四％

▽同棲について①してみたい一〇％②したくない四六％③わからない四四％

▽ラブレターもらったことある？①ある四六％②ない五四％

▽ラブレター書いたことある？①ある三一％②ない六九％

【将来について】

▽何歳で結婚したい？①二二歳五％②二三歳一三％③二三歳二三％④二四歳一五％⑤二五歳一六％⑥二六歳以上一八％

▽子供は何人？①一人三％②二人四四％③三人三〇％④四人一〇％

▽結婚するなら①恋愛八六％②見合い一四％

▽今度生まれるとしたら①男五〇％②女二六％③どちらでも二四％

【好み】

▽スカート①ミモレ六五％②ロング八％③ミニ二七％

▽スラックス①ジーパン五六％②パンタロン三七％③スリム七％

【その他】

▽父母を尊敬している？①いる三〇％②いない二二％③普通四八％

▽先生を尊敬している？①いる一〇％②いない三四％③場合による五六％

▽親友は①いる五五％②いない一三％③わからない三二％

▽親友いますか①いる五五％②いない一三％③わからない三二％

▽悩みごとだれに相談する①友人六一％②父母一五％③兄弟一二％④先生二％⑤その他一〇％

▽家出考えたことは①ある五一％②ない四九％

▽自殺考えたことは①ある五三％②ない三五％③よくある一二％

▽現在の高校生活について①満足七％②不満四三％③まあまあ五〇％

▽支持政党①自民一四％②社会一七％③共産一〇％④公明一％⑤民社一％⑥なし五六％

続いて男女共学についてのアンケートをみよう。

▽女子校と聞いたときのイメージ①のんびり②明るい③可憐④暗い

▽女子校のプラス面①友人関係の親密感②開放的な生活③気楽④のびのびできる⑤異性意識しなくてすむ

▽女子校のマイナス面①のんびり②学力低下③ダラダラ、ルーズ④惰性的で無気力⑤妥協し易い⑥視野狭くなる⑦異性への恐怖感

【男子が入ってくることについて】

▽何か抵抗感じるか①はい五一％②いいえ四八％

▽利点あると思うか①ある三一％（活発になる、学習の向上、楽しくなる）②ない六九％

▽マイナス面は①ある五八％（気楽でなくなる、男女関係が難しい）②ない四二％

▽共学について①共学がよい五八％②女子校がよい四二％

以上両アンケートを通じていえることは、とかく問題が多い現代の高校生だが、大半は地味で、保守的で、真実に悩んでいる点、昔も今も変わりないのではあるまいか

（信州民報九月三・四日付より）

看板製作
回転看板　PAT. 6件（含申請中）
コミー工芸株式会社
小宮山　栄
（小諸市出身、33年卒56期）
会社　駒込駅　歩いて1分　TEL(901)8890
自宅　蕨駅　歩いて8分　TEL0484(44)4838

鋳造品の総合商社
矢島鋳工株式会社
木型、金型より一貫生産
普通鋳物　ダクタイル　砲金　機械加工
鋳鋼　ステンレス　シンチュウ　鋼板加工
マリアブル　アルミ　ダイキャスト　組立、塗装
美術工芸鋳物　記念品、御贈答に、各種社内に陳列
川口市並木町2—11—6　TEL（0482）53—2662（代）
取締役社長　矢島　五郎（31期）　専務取締役　林　嘉市（58期）

わんだれかい
王陀礼会
ふるさとの方言
浅間が、千曲が
よみがえる
たまには　きてみれや
例会　毎月第一水曜日　6P.M.
会場　川口・関東支部事務局

初心者のためのゴルフ（一）

（33）橋本利政

最近、人が何人か集るところ、必ずと云っていいくらいゴルフが話題にのぼる。事程さようにゴルフは面白く、むづかしいものである証拠であろう。今回はこの厄介な曲物ゴルフの基本的なことについて少し書いてみようと思う。

まづ、初めたばかりの人が特に留意しなければならないことを二つ三つあげてみると、第一に、自己流は禁物であるということ。自己流は金と労力・時間の無駄で、上達への廻り道である。練習場やコースであれこれと口を入れ、教えたがる人が割に多いものであるが、一人のしっかりした指導者（熟練者）について徹底した基礎を習得すをことが大切で、上達への早道である。なぜならば指導者によって教えるポイントがそれぞれ違うからである。第二に、正しい基本を身につけること。グリップやスタンスは最も基礎的なことであるが、割合に軽視され出鱈目になっている人が多い。この適否は打球の成否の八〇％以上を占めると云われる。第三に、リズミカルな正しいスイングを体に覚えさせることである。それには成可く多くクラブを持つ時間を生みだすこと。一寸した余暇をみて毎日でも空振りをする

原稿募集、広告募集 年会費納入について

原稿募集

一、内容　自由

一、原稿枚数　四百字詰原稿用紙三枚以内

一、締切日　昭和五十年三月末日

一、原稿送先　「川口市並木町二の十一の六　矢島鋳工㈱内上田高校同窓会、関東支部事務局宛」

広告募集

一、種類六千円　一万二千円

申込先「関東支部事務局」

◎会員の年会費の納入先

本会の会計事務は、未記会計において取扱っています。

◎年会費の納入方法について

（一）毎年春季（五月か六月）発行の会報を全会員に送るとき本会々計への払込票を同封し、その年の年会費をこの票によって、納入していただくことを原則としてます。

（二）支部大会当日（毎年六月か七月）、その大会に御出席の方は、その会場の受付で、大会会費とは別に年会費を納入される場合もある。

（三）または、各期にはそれぞれ同期生の会合が年に一回か二回開催されている期もありますので、その会合で幹事の方が本会の年会費未納者から預って、本会会計へ納めて下さる、という方法がとられてもいます。

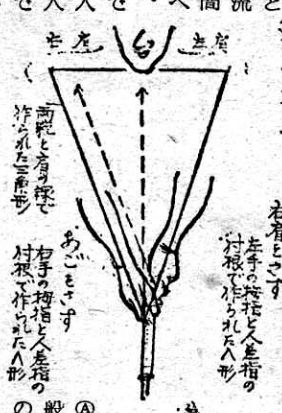
いずれに致しましても、年会費の納入に御協力下さい。

（年会費は一、〇〇〇円です）

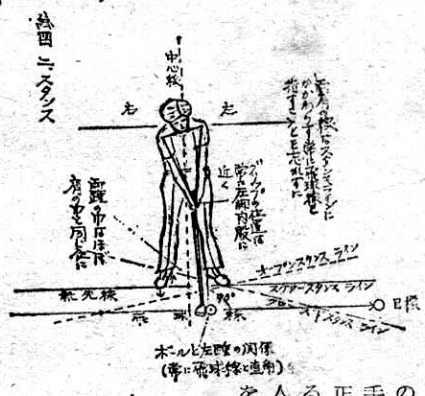
本会会計は（47）牧内操氏が会計の代表者となっています。

会計の取扱場所及び振替口座は、次の如く設定されています。

埼玉県川口市青木町二ノ二ノ七
牧内会計事務所上田高校同窓会
・関東支部
振替口座　長野一八一三二



絵図一　グリップ



絵図二　スタンス

Ⓐ オーバーラッピング。最も一般的で握ったときた左手の人差指の上に、右手の小指が合わさるようにのせる。

Ⓑ インターロッキング。手の小さい人とか、指の短かい人が好み左手の人差指と右手の小指とを組み合わせて握る。

Ⓒ ベースボールグリップ。極めて特殊でめったに見かけない。まれにパーターのグリップに使われる。

今回は最も一般的なオーバーラッピンググリップを取り上げてみる。グリップはスタンスと共にゴルフの死命を制するといわれるほどに、極めて重要なポイントで、スムーズなスイングと正確な飛球を生みだす根元である。握り方はシャフト（革若しくはゴムをまいてある個所）の元から一インチ（約三㎝）位残して左手の小指・くすり指・中指の三本で捲くようにし、手の平をシャフトの上からかぶせ気味にしっかり握る。この時に人差指と親指の付根でできるV形の先端は右肩の方向をさし、左手の甲は飛球線に正しく向いている。右手は左手の人差指の上に小指を重ね（これを組み合わせるとインターロッキング）左手の親指の上に右手の平をかぶせるように上から軽く握る。そして左手と同じように親指と人差指の付根でできるV形の先端は、顎または首の右付根あたりを指す。（注・両手の親指ともシャフトの真上から押えないこと、また完全にグリップしたときに、両手人差指の付根に小皺が二、[illegible]でるようになれば、しめたものである。）こうして正しく握ることにより、多少窮屈に感じるが、両脇は自然に締り、胸の前に肩の線と両腕に囲まれた三角形ができ上がる。これが正しいグリップであり、この三角形がスイングに重要な役目となってくる。

絵図三　ボールの位置

2　スタンス（参照絵図二）

スタンスはボールと飛球線の関係に対して、どのようにして立つかが問題で、その方法には次の三種類がある。

（A）スケアースタンス。ボールの飛球線と、両靴先とを結ぶ線（以後靴先線とよぶ）に平行にする。もっとも一般的なスタンスでウッド、ロングアイアン等のショットに適す。

（B）クローズドスタンス。飛球線と靴先線とが左前方で交じわる。特殊なスタンスで、パワーヒッターや背の低い人が飛距離を伸ばすために用いる場合がある。

（C）オープンスタンス。飛球線と靴先線が右後方で交じわる。クラブの性能を上げミドルアイアン以下のショットに大切で特にアプローチショットには欠かせないスタンスである。スタンスの両足の幅は、ドライバーウッド（一番ウッド）を標準とすると、肩幅か稍広めが最適とされるが、背の高低により差違があることは勿論である。仮りに肩幅が四五㎝の人の場合、両足踵の内側の間隔を四五～四七㎝にとれば適当である。。初心者はこの幅をクラブに印をつけておくのも方便であろう。クラブの長さが短かくなることにより足幅も少しつづ狭くなることは当然である。

3スタンスとボールの位置（参照絵図三）

この関係位置を文字で正確にいいあらわすことは非常にむづかしいが、先づ使用クラブを正しくソールし、グリップする。次に左踵の内側をボールの個所から飛球線に対して直角90度に立つ。この左踵を基準にして右足でスタンスの幅をとる。この右足のおく位置によりスケアー、オープン、クローズドスタンスと変化がでてくる。体とボールとの距離はボールに対して正しくアドレスした場合、グリップと腹との間隔は概ね一握り半位が適当である。両膝を軽くまげ体重はうしろぎみで両踵に少し懸る位とする。この時の上体は背中を軽くまげ、腹をやや前に出すようになる。両肩・両腕の力をぬき、リラックスした姿勢で立つことが望ましく、次のスイングがスムーズに行なわれ、正確なショットにつながるわけである。ここまでの基本が常に守られることにより、ゴルフの成功率八〇％を獲得できるともいっても過言ではない。あなたは既にビギナーの域を脱したものといえる。

あとは練習のみである。（続く）

上野法律事務所

弁護士　上野高明（49期）

武蔵野市中町1－16－1　小松ストアービル 501

TLE 0422 (51) 6170

自宅　調布市深大寺町1323－1　TLE 0424 (83) 7652

『ずっこけ在校録』（1）

（32）中村礼三

まあご一読下さい。

オレのずっこけぶりをさらけ出すのはかったるいが、過去の原稿は優等生の記事ばかり。この辺で劣等生ぶりをお目にかけるのも、又同窓会の集まりを優等生の集まりと感違いしている諸兄の為、にも、そしてオレよりひどい奴がいたとの安緒と親しみを覚えてもらいたいためである。級友の悪童ぶりもドンドン出てくるが、勘弁しろよ、ナ。

オレと上田中学との因縁は次のことから始まる。小学校六年生になった日に、オレは商人になって何かデッカイ金儲けをしてやろうと秘かに決心していたので、上田中学へ入学するなんて、爪の垢ほども考えていなかった。

それが卒業間近になって、オレを中学へ受験させたのは、島田仁重という、更科郡信里村の出身でまだ独身だというのに、抜けビンでおまけに蓄膿症のいかさない先生だった。この先生、市営競技場の近くに下宿していたので、オレの家から歩いて五分チョクチョク遊びに出掛けていた。

その先生の書棚に樺色の表紙に金文字で、日本文学全集と書いてある素適な本が三十六巻全部揃っていたんだ。オレはその本の魅力につかれて毎週一冊宛借りては熱読していた。谷崎潤一郎、志賀直哉、永井荷風など、六年生の分際で或る程度理解できたのだから、オレも相当ませていたといえる。オレはその本を読みたい一心と、何んに効くのか知らないけれど、当時でも珍らしかったサフラン茶を時々先生は飲ませてくれるんだ。

そんなことが度重なって、多少のヒケ目を感じていたし、入試も二人に一人は落ちる合格率だったから、オレもあえて反対出来なかったのかも知れない。そんなオレが入学試験のときの卵の問題と、面接のとき教育勅語を言わせられたことを、ハッキリと覚えているからオカシイやね。卵の問題では受精した目のところを、教育勅語では「夫婦相和し」と言うところを大きく唱えたら見事入学と相成ったのである。

そして甲、乙、丙、丁組の乙組とやらに編入された。その時、何んの間違いか因果なことに、仮級長とかのお墨付をいただいたからサア大変、オレにそんなもの務まる筈もなく、あえなく一学期でダウン、全く助かったナア。何しろ、仁重先生から借りてくる全集と、中国文学に興味を覚えて、肉布団、金瓶梅、剪灯新話や、聊斉志異にまで手をのばしていたから、教科書なんか一寸も面白くない。特に英語と数学の本は机の上にツンドクだ。

一番参ったのは英語の発音だった。英語の教師はピッグと綽名があった戸川というチョビヒゲ、鼻メガネで色白の、小肥りのオッチャン先生だった。動物園の熊よろしく、机の間をいったりきたりしながら、舌を上顎や上顎にくっつけて息を歯のスキ間から出して、アウとかスウとか、ハァとか。オレはその頃、ボコチンに若草がチョロチョロと萠えはじめてきたし書物で「ペロ」はモット素適な他の方法に使こうことを知っていたから、中学の教師なんてえのは、こんなつまらないことを教えてメシを食っている人種かと軽蔑してしまったから、そんな馬鹿らしい事も無視していた。

ところが戸川のオッチャン、知ってか知らずか、無暗矢鱈とオレばっかり当てやがるんだ。オレは勿論立ったままで黙秘権の行使だするとピッグ先生、茹で上りのタコみたいに真赤になって怒るんだワサ。クラスの奴等はオレを馬鹿だと思っていやがったんだろうがオレは「沈黙は金なり」「沈黙は金なり」と、念仏の如く唱えながら頑張っていたよ。でも戸川のオッチャン、オレをブン撲らなかったよ。

昭和三年頃の中学では、武道というのが正課になっていて全生徒が柔道か剣道のいづれかを選ばなければならない仕掛けになってた。

柔道を選んだオレは強かったネ。柔道の時間に十数人ブン投げて怒ちタネさんこと依田先生のおめがねに叶い柔道部入りをした。

ピック先生、その時柔道部の担当指導だったから、そんな話を聞いていたのかも知れない。しまいには呆れはてたのか、それともオレに当てゝいたのでは教科が少しも進歩しないと思っかのか、オレのところは何時も無事通過。そんことをよい事にして、オレはますますツンドクを励行した。

ピック先生とは、一年でバイバイしたが、半世紀近くもたった今思いを当時にいたせば、オレって奴は我ながらイヤな奴だったナア。先生から見れば、あつかいにくい生徒の一人であったことは間違いなさそうである。然し学科が全部嫌いだった許ではないんだぜ。藤沢直枝先生の歴史、林義一郎先生の社会、井本モコさんの化学の時間等は真剣だったし、学級担任の小泉先生のガンチャンや山嵐の横沢インキョ先生の授業も好きだった。今だって中国文学の他に、考古学や、自然、生物学なんてえのはすごく興味を持っている。

やがて一年生の学期末が来て、勧進帳ならぬ成績表をオヤジに見せたら、オヤジ曰く。「成績の良い奴が必ずしも社会の優等生になるとは限らねえよ」と変な慰め方をしてくれたよ。その時オレはオヤジの身体から後光がさしている様に思え、眼頭が熱くなって流石のオレも顔を上げることが出来なかった。

然し不思議に、発憤して勉強しようといふ情感は涌かなかった。そしてその晩、すき焼をご馳走してくれたオヤジは、晩酌をチビチビやりながら、「蛙の子は蛙か」「でも普通の人間になれよなァ」と云って高笑いした。オレより二期上級生で、青木大二といふ優等生を持ったオヤジの同僚がいたので、オヤジは転任するまで常にヒケ目を感じていたのではないかとオヤジの命日にいつも詫びている。学校の成績のことでは一度も叱らなかったオヤジは、オレが野球部に転向した四年生の六月二十三日、南佐久の高野町で、五十一才の若さで客死した。いつもじっと黙って見つめていてくれたトウサン、さよなら。本を買うというと、いつも黙って金を出してくれたトウサン、さよなら。（続く）

精密歯車装置設計製作
精密機械仕上加工及組立

若葉精密工業株式会社

取締役社長　土屋学（31期）（丸子町出身）
専務取締役　土屋博（47期）（〃）
取締役　土屋孝（44期）（〃）

東京都目黒区八雲2－8－5
電話（723）1717（代表）

真空技術の日南

食品機械・真空化学装置については試験設備あり、御利用下さい。

社長　宮坂三吉（31期）

日南機械株式会社

東京都千代田区内幸町1－3－1（幸ビル）　TEL 502－6201

事務局だより

六月末の第十三回支部大会も、無事盛会に終り、盛夏七月に入る七、八月は暑さもあり、例年、大会の反省会兼幹事会は九月にひらかれる。会報は十一月の発行であり、事務局もほっとしたところである。

本会の会計委員からの依頼により、事業の根本的問題である本会の会計現状（十一月二十日現在）についてはご報告申し上げる。

同窓会の運営も御多分にもれずゼニ金のかかるものである。

幹事会は幹事各位に毎回会食代は自弁で願い、会費費は会計で補てんする。大会の準備と関係についても出席会員の会資では間に合わない。更に年二回発行の会報、「うえだ」の経費も、最初は広告費で賄えたが、物価の値上りで本会計よりの援助を仰がねばならない。

会員諸氏が、せめて千名納金していただければ円滑にゆく。

今大会の大会通知（会報第十一号）にそえて年会員納入方も、本会計から強くおねがいしたところ。六百九名からの納入があり、七拾七万六千五百円也の送金があった。

同窓諸氏もけして本会を忘却しているわけではない。更にまた大会当日、会場受付で出席会員の内五十三名が納金、九万一千五百円也の由。なお大会後、第三十三期生の幹事が同期会員分の二十五名分年会費として、二万五千円也納入されたそうである。合計千名にはもう一息である。

大会当日には、詳細にわたる年間会計報告もその都度なされているが、更に今後の会員諸氏の年会費納入に御協力ねがいたいとの会計幹事一同からの願いである。

切に同窓諸氏の御協力を乞う。

九月末、久々にひらかれた「幹事会」の報告は別掲記事を参照されたい。以上。

住所変更者

昭和四十九年三月より、本会員で次の諸氏が、住所変更されました。

(18)小川　栄一　港区六本木四―二―五　(22)渡辺　三郎　上田市殿城八三九　(25)福田　勝之助　流山市東深井八三―二　(28)三井　重雄　新宿区西新宿六―十六―十一　(29)井本　利一郎　目黒区目黒三―一―七―一二〇四　(31)宮原　克己　更埴市小島三〇七五　(32)安藤　敏夫　足立区梅島三―十九―九　(33)加藤　鉄司　習志野市本大久保一―十四―十一　(38)矢鳴　仁　北海道千歳市祝梅　(41)古谷　達孝　三鷹市井口一七七武蔵境ハイム二〇四号　(42)青山　幸夫　金沢市本多町三―六―三　(43)土屋　功　相模原市上鶴間ルネ東林間A五一二　(43)滝沢　源平　中野区弥生町二―七―十　山極栄司　府中市清水ヶ丘一―七　(47)若林　広一　柏市新富町一―五―四・豊城　乾　名古屋市千種区添町一―五七　渡辺　整　我孫子市開発戸六二一―三　渡辺　功　東久留米市ひばりヶ丘団地一六九―二〇五　(48)酒井寛文　新宿区西落合一―三二―十一―一〇二　(50)大塚　文芳　八王子市片倉町五六四の二二・沼田　淳　世田谷区千歳台一―七―三・井出　藤寿　川崎市多摩区菅一五一六・間庭　秀人　八王子市長沼町五九三―二二五・宮入　明雄　大田区池上五―十―十一・平野　昭邦　町田市つくし野三―四―八・宮原　省三　横須賀市鴨居二の二十・十の七〇六　(51)臼田　稔　八王子市清川町十一―六・浅野井哲　目黒区碑文谷二―一九―二・平井　秀男　横浜市磯子区汐見台一の七・一七〇七の四二・中島　通明　練馬区下石神井三―三―五　(52)大島　駿　武蔵野市桜堤団地七三―六・生駒　利行・八王子市西寺方町一〇〇一宝生寺角栄住宅二七二号・井出　計廣　横須賀市久比里一―四四四―五二　(54)沓掛　文哉　横浜市戸塚区保野町一四三〇ドリームハイツ九―八〇八・石原　澄江　府中市四谷三―十七―二〇・山岸　周　松本市芳川区平田七八一―三　(55)荻原　光夫　小金井市貫井比町三―三―三二―四六　黒岩　了　川崎市中原区木月四八〇　(56)堀内　幸　埼玉県入間郡坂戸町大字坂戸一二九一―三二・中村　甲治　横浜浜市緑区すすき野三―三―二―四〇一　(57)岡村　潔　杉並区本天沼三―十四―四東京靴下㈱寮一〇二号室　藤田　茂　大宮市中川九三三―十一　中島　紀明　横浜市瀬谷区瀬谷町二四八五第一川口ビル五〇七　長坂　進　横浜市金沢区六浦町二八七六―八　水沢　光男　長野県北佐久郡軽井沢町李峠町二　竹内　昭　埼玉県入間郡三芳町藤久保四〇二九　関　行裕　田無市芝久保町一―二二―一　(58)岩下　弘　北九州市小倉北区上富野二―一　波田野　浩　板橋区東新町一―十九―一南ときわ台ローヤルコーポ三〇五　塚田　恒雄　柏市酒井根三三二―一六　北村　尚巳　目黒区目黒三―三―一興銀中目黒寮B二二　(59)関　啓治　武蔵野市中町一―三〇―三佐藤ビル四F―B　滝沢　武朗　茨木市春日三―十四A―四〇六　小林　賢一　練馬区関町六―四四六―一　(60)渡辺　達三　羽曳野市栄町一―十六―三二　青木　進　八王子市元八王子町一―二四四―四六松子舞十三―一　坂田　匡　横浜市旭区今宿南町一七三九　(61)山本　進　長野県小県郡丸子町東内一九五四・宮坂　清　藤沢市善行団地七―十―二〇四　(62)岩井　重一　横浜市港北区錦ヶ丘二八―十二　(63)市村　富男　大田区大森西二―十一―二〇　平林　善夫　横浜市緑区梅ヶ丘十一―二東急建設社員寮アパート　平山　健一　横浜市緑区梅ヶ丘十一―二東急建設社員寮アパート　山浦　善樹　板橋区高島平七―三七―一大川荘五号　山浦成子（旧三鷗）板橋区高島平七―三七―一大川荘五号　佐伯　謹吾　新宿区上落合一―二―十八落合寮A―四一九　(64)石井　則男　港区芝五―三四―二　芝春日ビル五三七号田町駅前団地内　三井　由美子　世田谷区給田五―二―六犬井荘　(67)上原　正三　上田市中央一―七―六　(68)柳沢　直　長野県小県郡東部町県（以上七十名）

会報第11号「うえだ」が返送になった者

会報が郵送不能の方々は左記の通りです。御存じの方は事務局迄

(23)桑原　民二　竹内　保　(24)小林　則夫　滝沢　中　(25)柳田　昌一　(29)和田　米作　(30)沓掛　友彦　菅沼　祐蔵　(31)原理　(33)豊田　泰雄　(34)矢島　英雄　荒井　隆雄　岩下　忠美　(36)村山一郎　(38)峰村秀男　(39)上原　高美　高木　甲子雄　出浦　新一　(40)砂田辰雄　武重　三郎　浅田造　(41)甲田睿　(42)谷島啓之　若林　宏一　(43)寺尾　康　土屋　功　(44)小山　久治　斎藤　辰二　荻原理宏　田中　稔　(46)足立隆　(47)余地　毅　井出　信衛　(48)村上　道夫　横関　良治　三浦幸雄　塚田　正直　関　忠重　吉村　功　小山　聲　(49)小原恒夫　原　行明　滝沢　栄　田沢明　(50)小宮山　奠　石川　和男　塚田　満　山内　重昭吉村洋一　(51)大塚　修　熊木恒夫　長沢　紀夫　丸山　弘　小林　範雄　宮川　司　(52)金子政五郎　滝沢　泰造　柴田　正人　柳沢　信吉　(53)西村　靖彦　山崎　智博　高木　一男　高野　政晴　松井　利通　小野　昭一　山辺　一磨　春原　弘　伊藤　良雄　柳沢　浩二　(54)干村　一平　米津　統男　保屋野　忠　小市　忠雄　堀内　木意　宮沢　孝忠　(55)木下一郎　斎藤　肇　吉池　礼次郎　中山　千明　秋山　弘志　大野　忠雄　坂口　宏明　滝沢　博田玉　尚武　長谷川　善一　前沢馨　(56)高橋　紀雄　神津　進甘利　喜勝　滝沢　健　堀英三　高村　順一　与良　正敏　那須　敏夫　松井　広通　中村　勉　藤沢　行雄　大塚　栄造　小林建夫　(57)松木　功　若林　篤　青木周二　杉原　弘一　箱山　雍　中沢　拓生　大矢　常雄　六川　宏二　小島　渉　本田　健　久保新一　小出　睦夫　伊藤　紘二　(58)金井　深　合津　秀雄　尾崎　昌弘　中沢　民雄　桜井　忠司　西尾　兼能　中村　国武　清水　昌彦　小泉　健　一条　太郎　井沢敬　中島　秀忠　(59)小山法幸　宮島　健治　山辺　昭紀　柳沢英之　佐藤　占治朗　宮島　猛男　萩原　清人　有賀　勝雄　滝沢叡　山口　元彦　饗場　賢司　(60)武井　輝雄　森田　英明　竹倉征祠　渡辺　俊彦　中島　寿久　青柳　偕行　中田　信秀　山崎裕二　井上　茂　(61)中村　和浩　有賀　度　大草　かほる　権八直子　江原　敦子　荻原　聖己　内堀　毅　宮地　明彦　(62)小池綾子　近藤　晃理　小須田　光一　竹内　寿則　西沢　清水　松崎勝三　片山　隆行　室賀　太郎　上原　隆一　藤斎　実敏　富山格　竹淵　稔　市村　光志　(63)橋詰　徹　細谷　勝夫　小宮山昌武　内堀　義信　林　仁志　小林　健　佐藤　和英　坂本　美枝　大塚　和弘　塩崎　郁夫　(64)岩崎　民雄　中沢　光子　(65)沓掛　文夫　(68)栗林　祐二（以上一七九名）

第十三回関東支部大会の会員の声

返信中にきく

本年五月会報第十一号を発送し大会出欠有無のはがきも同封しましたが、その返信の通信欄に本会に対する多くの質問、感想、希望等が寄せられました。

要約したその主なるものを御報告致します。

一、関東支部を退会申し出

老衰五感も衰弱のため。(6)工藤　聡。転勤、関東地区外に移住のため。(42)青山　幸夫（金沢市へ）(51)富岡　昭（テキサス転勤）(58)岩下　弘（北九州市へ）。

二、大会の欠席理由

（一）予約会合のため、または出張のため欠席不悪、盛会祈る。(12)太田　八郎外三十三名。

（二）老衰及び病気のため欠席止むなく残念、盛会を祈る。(13)志摩　喜一外八名。

（三）土曜日の午後では無理。次回に期待、盛会祈る。(17)小平　貞介外六名。

三、大会所感

大会出席者からきくと「あまり面白くないぞ」という、これもたしかめたかったが旅行で欠席する。(30)山岸　一一、

幹部諸氏の御努力に敬意を表するも、昨年大会に出席し正直なところガッカリ。悪くいうと養老院の演芸会といった感じ。我が同級生もあと十年もするとあの様な者がどしどし出てくるかも。それ迄待つとするか。(59)水野　敏男

東京などでも一年に一度ぐらい同窓会をひらいているのか、その連絡方法は。(61)中島　鉱市

（答）同期会のことについての質問と思います、調査の上で連絡）

幹事さん御苦労。会報は楽しみです。しかし大会の参加者は若年寄（？）のようで少し残念。(63)田中信和、

四、会報に思う。

長い間、教員で学校（高）を渡り歩くこと六校、同窓会、会報というものに接するも殆んど名のみの役員会が十人位、総会でも役員含めて十五、六人。これに比し私はよき母校、よき同窓会をもったと誇りに思う。嘗つての勤務校の同窓会に招かれて宣伝した次第所用のため今大会欠席。本会の御発展を祈る。(29)森　四郎

会報第十二号の見出し「夕日千曲の水の面に」は、三十数年前を様々な思いをこめて回想させてくれました。当時の校歌、応援歌など、まとまったものあったらお教え下さい。(43)清水　哲夫

（答、大会出席者には毎回受付で上田高校歌集と記念手拭をお渡しています。一部をお送りします）

ますます充実してきた会報「うえだ」をみて感激、「もの」より「人」の時代となり本会の意義を改めて認識す。(48)堀内　惇

同窓会には御無沙汰するも、会報「うえだ」で結ばれる心のたよりを何時も嬉しく拝見、役員各位の御健斗を祈る、(48)田中重徳

同窓会幹事諸兄の御苦労には感謝、ただ会報「うえだ」の内容、み力不充分。今年二年ぶりに帰省、ふるさと上田近辺の変化生活している人々の近況、あるいは上中生の人生歴、（ロマンス戦争、社会、思想）等の掲載は如何。(40)吉池　一郎

異色の同期会の記事は、大した意味がない。(27)柳沢　時介

文芸、文化記事風なものや「すいひつ」などの掲載も希望したい。(28)市川　為雄

（答、以上各所感は会員各位のお考え、しかし委員も反省しています）

五、大会開催の日時について

大会は土曜の夜か、日曜日を希望したい。(39)菊地　博外二名

開催日はウィクデーの、従来通り夕方からを望む、(40)井本　公一外四名

（答、幹事会に御一任乞う）

六、関東支部名簿作成について

現住所区分で、「さくいん」は回別と氏名いづれかがよいと思う。(54)古見　喜八郎

関東支部名簿の完成を今より楽しみに待つ。(58)杉浦　皓充

七、年会費について

昭和四十九年三月二十日、船中より年会費千円送金したが、届いたかどうか。(43)土屋　功

（答、残念ですが届いていません私信に封入の由、なほ調べてお答えします）

同窓会本部に四十八年度分まで年会費納内ずみ、今回より本部への会費納入は中止し、支部一本に絞りたい。これでは会員として失格となるか。関東支部で万事まとめられたい。(32)浅井　敦

同窓会の会報等に関して、従来上田市の本部より当方へ送付されており、本年度の会費も去る六月六日本部へ納入しました。従って本年度の当方への通信等は、御辞退申上げます。なお御申越しの会費は四十七、八年分とも本部へ納入済につき御調査願います。また来年以降については、本部と御支部間の御決定をお待ち申し上げます。(39)池田　正住

（答、浅井、池田両氏へお答えします。同窓会本部よりの年一回の会報は、全同窓生宛に送られるものであり、同窓会館（母校の正面に建設された建物）の維持費として一口金五百円也以上を年会費としてではなく寄附の形で、全国同窓生に本部からお願いしているものであります。本部からの説明書をよく読んで下されば分ります。関東支部の年会費は、支部会員としての会費であることを御了承下さい。

従って「同窓会本部の会館維持費」と「関東支部年会費」は全々別個のものでして、関東支部は独立採算制で、支部運営の行事や会報発行の費用に年会費は使用されています。よくこの種、質問があり電話でも会報にも説明していますが御了解下さい。浅井氏の失格などはありません。池田氏の会館維持費は納入済み。本部と関東支部の会計は現在全くの別会計であることを再言し、一本化は困難、あらためて説明させていただきます）

◎(36)田中　六郎、(48)酒井　寛文、(60)村田　正男、以上三氏の各御質問は紙面の都合で直接、個々にお答えします。

全国高校総合体育大会への篤志寄附御礼状

去る九月二十日、上田高等学校運動部後援会長　柳沢理一郎氏並びに上田高等学校々長柳沢恒夫氏の連名で当事務局当てに篤志寄付に対する懇篤なお礼状が届きました。それによりますと目標を上回る額が整い、予定通り滞りなく遠征派遣を終えることが出来たそうです。試合の成績は後記の通りです。なお残金についてはPTAの理事会に計って、本年度の国民体育大会出場費の補助、来年度の全国大会出場遠征費等として、有効に使用させて頂きたい予定である旨記してありました。

▽編集後記△

経済界のきびしい情勢のもとに敢闘されている会員諸氏よ、苦しい時にこそあの上中（高）精神を発揮して頑張ろうではありませんか。

9・27幹事会の日午後時四時から農林年金会館の会場で、本号の第一回編集会議をひらき、矢島・土屋・中村・花岡・石倉・神野・村田の各委員が出席、原稿の整理発行日、次の編集会議の日時などを検討。10・21第二回目、矢島・土屋・中村・花岡・石倉・伊藤・清水（幾）・小木曽・村田・小宮山・の各委員。11・1第三回目、矢島・花岡・石倉・小木曽・村田・堀内・清水（義）・小宮山の各委員。

11・12第四回目、矢島・花岡・石倉・小木曽・村田・清水（義）の各委員が出席、それぞれ事務局に於いて熱心に激論を交えながらの編集風景。何時ものことながら世の不況を忘れ、酒・女（？）も忘れ、この頼しさ、流石は真田城趾で育ったつわものどもである。

末筆になって申訳ありませんが種々御協力下された会員の方々、広告主の方々に厚く御礼申し上げます。

又事務局である矢島鋳工（株）の事務員の方々には、何時も御世話になり、編集会議の日には残業までして御手伝いをいただき、感謝致します。

本年もあと僅かですが、御元気で。（田中第二次改造内閣発足の日に）

おくやみ

つつしみて御冥福を祈り、御遺族様に心より、おくやみ申し上げます。

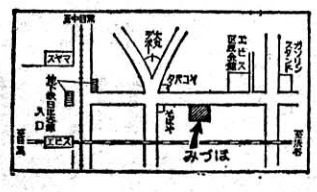
●(7)林部源三郎
昭和四十九年五月十七日
御妻女以登様より文書で報告

●(18)中村範輔
昭和四十八年二月六日
御遺族より文書報告

●(28)世良俊雄
昭和四十八年九月五日
御遺族登美里様より文書報告

●(32)太田早速
昭和四十九年三月二十日
御妻女みよ子様より文書報告（合掌）

合成樹脂・ダイキャストならびにプレス金型製造・付属する一般成形
兼万工業株式会社
社長　春日　敦美（46期）
本社　上尾市西宮下30　TEL 0487―71―2117（代）
アイディアがありましたらご一報下さい

クラス会・ご商談・ご会合に
ご利用のほどお待ち申し上げます
割烹　みづほ
東京都渋谷区恵比寿西2の2
電話　461―8663

天ぷら、ふぐ、活魚
割烹　幸村（ゆきむら）
ふるさとの味です。御宴会、御商談御家族連れに御利用下さい。
新宿区戸塚町2―99
TEL 03―200―0775
三井　明（51期）（上田市新田出身）